延岡市文化財調査報告書　第14集

平成7年度市内遺跡発掘調査事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

GONJIROU
権次郎遺跡

MATSUNOMOTO
松ノ元遺跡

YAMANOTA
山ノ田遺跡

IIJIMA
飯島遺跡

UENOBOU
上ノ坊遺跡

MIYAHATA
宮畑遺跡

DOUNOWAKI
堂ノ脇遺跡

SUYAMA
巣山遺跡

KOURENJI
光蓮寺遺跡

KAMIMUTA
上無田遺跡(第2次)

1996.3

延岡市教育委員会

序　　文

延岡市は宮崎県の北部に位置し、県内でも最大を誇る工業都市であります。また、昨年国立能楽堂で開催された「能面展」や、本市で開催した「江戸時代の延岡展」により、全国的にも注目される文化都市でもあります。

現在延岡市は、「宮崎県北部地方拠点都市地域」の指定、「一般国道10号線延岡道路」の都市計画決定、さらには、「西部大規模複合産業団地」学術・文化ゾーンでの大学設立は、本市における都市の活性化を目的とした、大規模な公共事業であり、それらに関連する開発事業や民間開発が増加しています。このような状況に対応するため、市教育委員会では開発事業等の計画に際して、埋蔵文化財の確認調査等を実施しているところであり、本書はその報告書であります。

本書が埋蔵文化財への理解を深める一助になることを願うとともに、研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にあたり県文化課をはじめ、地権者の方々などのご協力を得ました。記して感謝いたします。

平成８年３月31日

延岡市教育委員会

教育長　牧　野　哲　久

例　　言

1．本書は、延岡市教育委員会が国・県補助を受けて、平成７年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書である。

2．本年度は、権次郎遺跡、松ノ元遺跡、山ノ田遺跡、飯島遺跡、上ノ坊遺跡、堂ノ脇遺跡、巣山遺跡、宮畑遺跡、光蓮寺遺跡、上無田遺跡（第２次）の発掘調査を実施した。

3．本書に使用した遺構・遺物の実測、トレース、図面の作製については、山田　聡、尾方農一、高浦　哲、甲斐佳代、甲斐千恵美、敷石サヨ子、高橋京子、山本敬子があたった。

4．現場での写真撮影は山田、尾方、高浦があたり、遺物の写真撮影は尾方、高浦があたった。

5．飯島遺跡の自然科学分析は、㈱古環境研究所に委託した。

6．上無田遺跡（第２次）出土の黒曜石は、宍戸　章氏（宮崎市）の御教示をいただいた。

7．方位は磁北を向いている。また、本書に使用したレベルは、すべて海抜高である。

8．出土した遺物は内藤記念館で保管しており、今後展示公開の予定である。

本　文　目　次

第１章　はじめに
1．はじめに……1
2．調査の記録……2
第２章　調査の記録
1．権次郎遺跡……4～5
2．松ノ元遺跡……6
3．山ノ田遺跡……7
4．飯島遺跡……8～11
5．上ノ坊遺跡……12～14
6．宮畑遺跡……15～16
7．堂ノ脇遺跡……17
8．巣山遺跡……18
9．光蓮寺遺跡……19
10．上無田遺跡（第２次）……20～22

挿　図　目　次

Fig 1　平成７年度発掘調査遺跡分布図……3
Fig 2　権次郎遺跡位置図……4
Fig 3　権次郎遺跡トレンチ１・３土層断面図……4
Fig 4　権次郎遺跡調査区配置図……5
Fig 5　権次郎遺跡出土遺物実測図……5
Fig 6　松ノ元遺跡位置図……6
Fig 7　松ノ元遺跡調査区配置図……6
Fig 8　山ノ田遺跡位置図……7
Fig 9　飯島遺跡位置図……8
Fig 10　飯島遺跡調査区配置図……9
Fig 11　飯島遺跡珪酸体分析結果１……10
Fig 12　飯島遺跡珪酸体分析結果２……11
Fig 13　上ノ坊遺跡位置図……12
Fig 14　上ノ坊遺跡調査区配置図……12
Fig 15　上ノ坊遺跡Ａ地区土壙墓実測図……13
Fig 16　上ノ坊遺跡出土遺物実測図……14
Fig 17　宮畑遺跡位置図……15
Fig 18　宮畑遺跡調査区配置図……15
Fig 19　宮畑遺跡トレンチ１・２土層断面図……16
Fig 20　宮畑遺跡出土遺物実測図……16
Fig 21　堂ノ脇遺跡位置図……17
Fig 22　巣山遺跡位置図……18
Fig 23　光蓮寺遺跡位置図……19
Fig 24　上無田遺跡（第２次）位置図……20
Fig 25　上無田遺跡（第２次）調査区配置図……20
Fig 26　上無田遺跡（第２次）Ｂ地区土層断面図……21
Fig 27　上無田遺跡（第２次）出土遺物実測図……22

表　　目　　次

第１表　平成７年度市内遺跡発掘調査一覧表
第２表　報告書抄録

写 真 図 版 目 次

権次郎遺跡……PL. 1
松ノ元遺跡……PL. 2
山ノ田遺跡……PL. 3
飯島遺跡……PL. 4. 5
上ノ坊遺跡……PL. 6. 7
宮畑遺跡……PL. 8
堂ノ脇遺跡……PL. 9
巣山遺跡……PL. 9
光蓮寺遺跡……PL. 10
上無田遺跡（第２次）……PL. 11. 12

第Ⅰ章　はじめに

1．はじめに

延岡市は、宮崎県の北部に位置し、東経 131度32分45秒～東経 131度50分20秒・北緯32度43分32秒～32度29分11秒の間にあり、面積は238.76平方キロメートルである。本市は、五ヶ瀬川の豊富な水源を基とする日本窒素肥料（現在の旭化成工業株式会社）等により発展する、県下最大の工業都市である。また、旧延岡藩主内藤家史料公開展示により、文化都市というイメージもたかまりつつある。現在、延岡市では都市の活性化を推進させることを目的に、都市基盤整備を重点的に進めており、それに伴う公共事業が増加している。さらに「宮崎県北部地方拠点都市地域」の指定や「一般国道10号延岡道路」の都市計画決定を受け、それらの関連事業が動きだしている。先に発表された「西部大規模複合産業団地」学術・文化ゾーンでの大学設立は、まさにその第一歩である。

今年の調査は、民間開発に伴う調査が主であり、これら開発事業と埋蔵文化財保護との調整資料を得るために発掘調査を実施した。

本年度の市内遺跡発掘調査は下記の10箇所で実施した。

遺　跡　名	所在地（延岡市）	調　査　原　因	調査面積	調　査　期　間
権次郎遺跡	出北字権次郎	大規模小売店舗建設	20㎡	平成７年６月９日～16日
松ノ元遺跡	下三輪町字松ノ元	九州電力送電線鉄塔建設	16.5㎡	平成７年６月19日～22日
山ノ田遺跡	櫛津町字山ノ田	ゴルフ場建設	11.2㎡	平成７年６月27日～29日
飯島遺跡	野田町字飯島	区画整理事業	115㎡	平成7年7月17日~21日、同年10月17日~18日
上ノ坊遺跡	富美山町字上ノ坊	宅地造成	56.5㎡	平成７年８月21日～８月31日
宮畑遺跡	大貫町字宮畑	公民館建設	14㎡	平成７年９月18日～21日
堂ノ脇遺跡	牧町字堂ノ脇	宅地造成	10㎡	平成７年９月26日
巣山遺跡	川島町字巣山	宅地造成	5㎡	平成７年９月26日
光蓮寺遺跡	大貫町字光蓮寺	ガソリンスタンド建設	10㎡	平成７年10月25日～26日
上無田遺跡（第２次）	野地町字上無田	宅地造成	37.5㎡	平成８年２月13日～19日

第１表　平成７年度市内遺跡発掘調査一覧表

2．調査の組織

調査主体	延岡市教育委員会		
	教育長	平成7年10月8日以前	松坂数男
		平成7年10月9日以後	牧野哲久
	文化課長		牧野勝利
	文化係長		酒井修平
庶務担当	文化課副主査		吉永綏子
調査担当	文化課主事		山田　聡
	文化課主事		尾方農一
	文化課主事		高浦　哲
特別調査員	宮崎大学教育学部助教授		柳沢一男
調査指導	県教育庁文化課埋蔵文化財第一係主査		菅付和樹
	県教育庁文化課文化財係主任主事		富士本伸二
調査作業員	安藤登美子、飯干将志、甲斐カツキ、甲斐カズコ、甲斐　正、工藤今朝子、工藤幸一、久保利男、酒井　巌、酒井清子、酒井初枝、酒井正志、酒井義穂、佐々木サツキ、佐藤　航、林田裕子、牧野昭徳		
資料整理	甲斐佳代、甲斐千恵美、敷石サヨ子、高橋京子、山本敬子		

発掘調査の事前協議等において、市地域開発課（現地域振興課）、同区画整理課、同都市計画課の方々に御協力をいただいた。また土地所有者の株式会社ホームワイド、九州電力株式会社、西武ゴルフ株式会社、佐竹産業株式会社、西田石油瓦斯株式会社、アルファ不動産および各地権者の方々には、調査の過程において便宜をはかっていただいた。記して感謝いたします。

Fig 1　平成７年度発掘調査遺跡分布図

1．権次郎遺跡　2．松ノ元遺跡　3．山ノ田遺跡　4．飯島遺跡

5．上ノ坊遺跡　6．宮畑遺跡　7．堂ノ脇遺跡　8．巣山遺跡

9．光蓮寺遺跡　10．上無田遺跡（第２次）

第Ⅱ章 調査の記録

1．権次郎遺跡

所 在 地	延岡市出北４丁目103-3 外	調査面積	20㎡
調査原因	大規模小売店舗建設計	担 当 者	山田・尾方・高浦
調査期間	950609～950616	処　　置	調査後破壊

(1)　位置と環境

当遺跡は、国道10号線と日豊本線に挟まれた旭化成工業株式会社延岡支社の東側に位置し、愛宕山東部の沖積地に広がる水田の一角で、標高約４ｍを測る。ここは、以前は水利の便が悪く、多くが畑地や荒地で水田に乏しい環境にあった。享保９年（1724年）牧野貞通が藩主のとき、岩熊井堰の工事に着手し、10年後の享保19年（1734年）に、井堰と用水路を完成させた。この用水路により当地には水田地帯が広がっていた。しかし近年は、10号線バイパスおよび区画整理事業の実施により、宅地化が急速に進んできており、現在では当遺跡の南側に水田を残すのみとなっている。

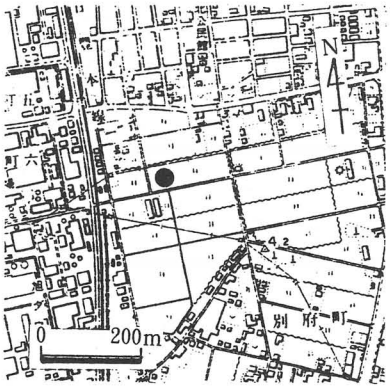
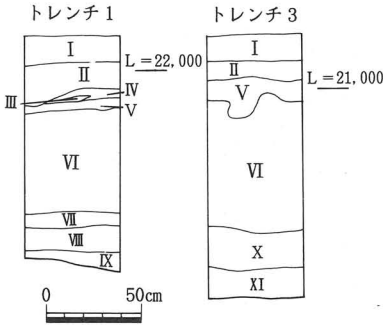


Fig 2　権次郎遺跡位置図
(1/15000)

(2)　調査の概要

発掘調査は水田址の検出を目的とし、トレンチ調査法による確認調査方法を採用し、事業予定者が用地買収を終えている水田２ヶ所について、トレンチを各２本、計４ヶ所において調査を実施した。付近の基本層序は次のとおりである。

調査の結果、調査地の南北にそれぞれある微高地は古くからの集落跡が存在していたと推定されている。それを裏付けるようにトレンチ１のⅠ～Ⅲ層から若干の陶磁器、Ⅷ層から明治期以降とおもわれる陶磁器が検出された。またⅥ～Ⅷ層に有機物、炭化物が含まれていることが確認され、旧水田の基盤層であったことが考えられる。トレンチ３のⅨ～Ⅺ層から水田遺構等は確認されなかったものの、トレンチ２・４の地表下約 1.6mから、砂礫が確認された。これは、調査地から北へ1.25km離れた五ヶ瀬川の堆積物と考えられ、河川の流路変遷を知るうえでの資料が得られた。



Ⅰ層　灰褐色粘質土（耕作土）
Ⅱ層　灰褐色粘質土（機械耕作以前の耕作土）
Ⅲ層　淡明黄茶褐色粘質土
Ⅳ層　明黄茶褐色粘質土
Ⅴ層　明黄茶褐色粘質土（Ⅳ層よりやや明るい）
Ⅵ層　明黄茶褐色砂質土（有機物が混じる）
Ⅶ層　灰茶褐色粘質土（有機物を多く含む）
Ⅷ層　明灰茶褐色粘質土（炭化物が混じる）
Ⅸ層　淡黄白色粘土（小石、砂が少量混じる）
Ⅹ層　青灰色粘質土（若干砂を含む）
Ⅺ層　明黄茶褐色砂土

Fig 3　権次郎遺跡トレンチ１・３土層断面図

今回の調査では、旧水田の基盤層が検出されたものの、出土遺物等から考えて、検出された水田層は、明治以降のものと判断される。またXI層以下は砂礫が確認され、近世の水田遺構は検出されなかった。文献上、この周辺は近世に水田が営まれていたのは確かなことである。今後失われていく水田地帯での調査は、慎重に行うべきであろう。

Fig 4　権次郎遺跡調査区配置図

(1/25000)

(3)　出土遺物

1～3は、トレンチ4より検出された遺物である。1は、スリ鉢である。2は、素焼きの鉢である。復元口径は22cmを測る。内外面ともロクロによる横ナデ調整がされているが、外面には、横ナデ後不定方向ナデがみられる。色調は内外面とも淡赤茶褐色を呈す。焼成はやや不良で、器壁の厚い部分では暗褐色のサンドイッチ状の色調を呈す。胎土は良好であり、微粒の砂を含む。3は、白磁の茶碗である。復元口径は 7.6cmを測る。口縁部はわずかに外反している。（高浦）

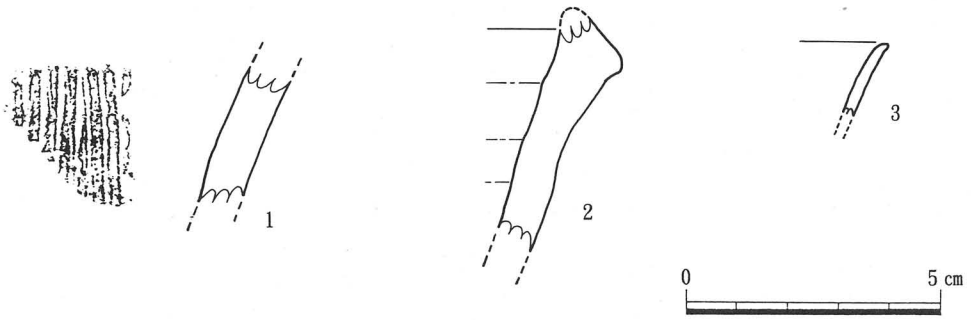


Fig 5　権次郎遺跡出土遺物実測図

2．松ノ元遺跡

所 在 地	延岡市下三輪町631-16外	調査面積	16.5㎡
調査原因	九州電力送電線鉄塔建設	担 当 者	尾方・高浦
調査期間	950619～950622	処　　置	調査後破壊

(1)　位置と環境

当遺跡は、国指定史跡南方古墳群の吉野支群の立地する丘陵から、五ヶ瀬川を挟んだ対岸の東西に派生する丘陵の一角に立地する。調査地は、標高約 110mを測る丘陵頂上の平坦部分で、目前に吉野支群、眼下には三輪の集落および水田地帯を一望できる地点にあたる。この地区にある三輪神社は、建立が養老2年（ 718年）とされ、この地区に古くから集落が営まれていたことが窺い知れる。調査地周辺は、延岡道路建設に伴う事前の現地踏査により、弥生～古墳時代の表採資料が確認されており、また北西約1.25kmには、通称「青谷城（あおやぎ）」と呼ばれる埋蔵文化財包蔵地があり、中近世の遺跡が所在すると思われる。

Fig 6　松ノ元遺跡位置図
(1/15000)

(2)　調査の概要

発掘調査は、丘陵屋根筋の平坦部分に4ヶ所のトレンチを設定し、土層観察および遺構検出に主眼をおき、調査を実施した。調査は、樹木等の根によりかなりの困難を極めた。当遺跡の基本層序は次のとおりである。第Ⅰ層腐葉土（シダ類の根が多い）、Ⅱ層黄白色岩土層（灰白色粘土混じりの地山）。土層観察の結果、表土が薄いことから遺構検出に主眼をおき、トレンチを広げ面的な調査を行ったが、遺構、遺物等の検出はされなかった。また、周辺の地形に人工的な造作も見られず、今回の調査地点で文化財の確認はされなかった。しかし、立地および周辺環境から、今後も同様の調査は必要であると判断される。

（高浦）

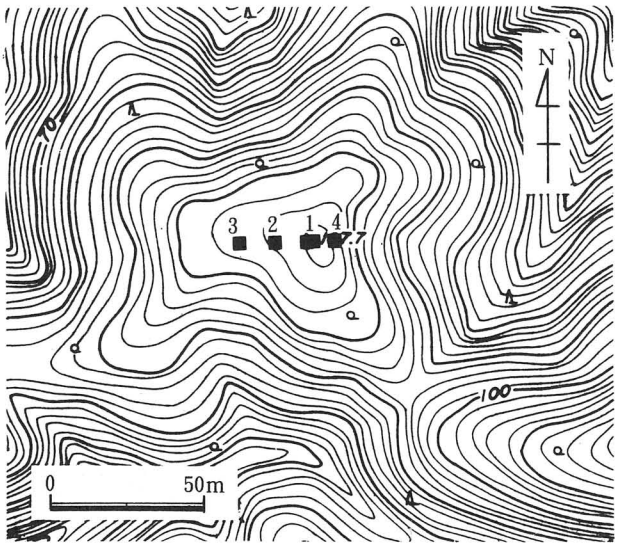


Fig 7　松ノ元遺跡調査区配置図
(1/2500)

3．山ノ田遺跡

所 在 地	延岡市櫛津町3705-1外	調査面積	11.2㎡
調査原因	ゴルフ場建設	担 当 者	山田・高浦
調査期間	950627～950629	処　　置	調査後破壊

(1)　位置と環境

当遺跡は、延岡市と門川町の境に西方から日向灘に向かって突出している遠見山半島の山丘地帯に位置する。ここは、標高約80mを測り、北に延岡市、南に門川町を一望できる。また、眼下に土々呂湾・赤水湾を望み、北東にのびる標高 223mを頂点とする丘陵は、「ブリ見山」と呼ばれる。ブリ見山は、明治期～大正期に日本の鰤大尽といわれた日高家が回遊してくる鰤魚群を監視した所で、今も当時の遺跡が確認できる。南に接する門川町庵川には、旧延岡藩主高橋元種が開いたといわれる、庵川窯跡が所在している。

(2)　調査の概要

発掘調査は、先に実施した現地踏査により選定した３丘陵について行った。調査は、トレンチ法を採用し、Ａ地区に１本、Ｂ地区に２本、Ｃ地区に１本設定し、土層観察および遺構検出に主眼をおいた。調査地の土層は、地区によって若干の差はあったが、第Ⅰ層暗茶褐色粘質土（旧畑作土）、第Ⅱ層明黄白粘質土（地山岩土が多く混じる）、第Ⅲ層明燈白色岩土（地山）である。調査の結果、表採で得た陶磁器片のみで、遺構の検出はできなかった。しかし、立地および周辺環境から同様の調査は必要であると判断される。　（高浦）

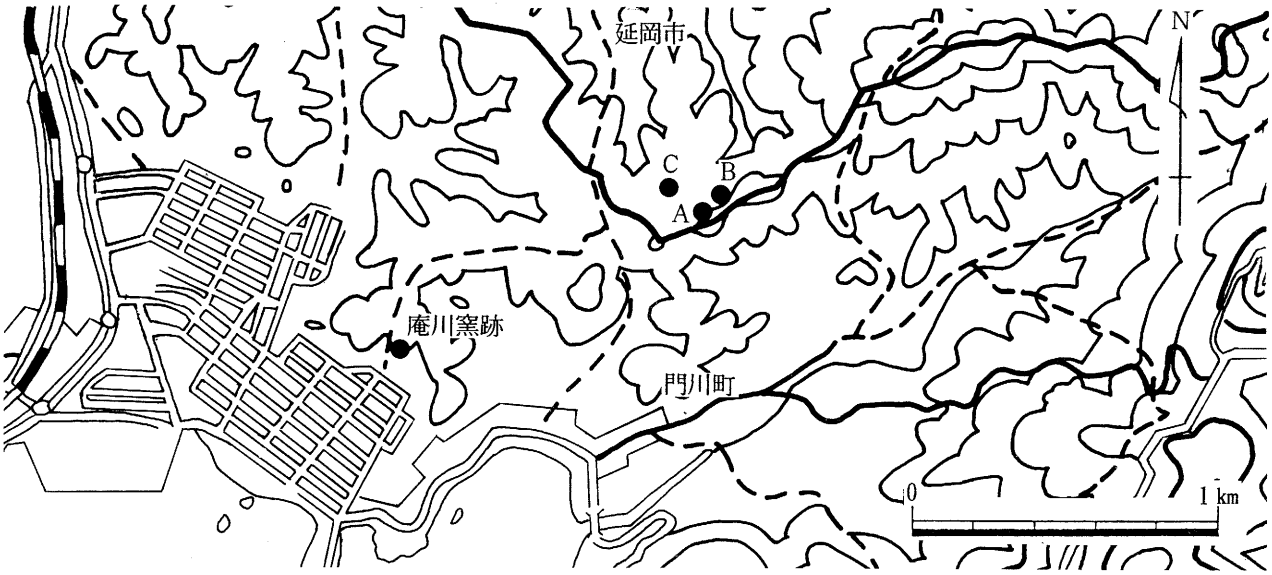


Fig 8　山ノ田遺跡位置図　(1/25000)

4．飯島遺跡

所在地	延岡市野田町5761外	調査面積	115㎡
調査原因	区画整理事業計画	担当者	山田・高浦
調査期間	950717～950721 951017～951018	処　置	協議

(1)　位置と環境

当遺跡は、延岡市街地から西方に約 2.5kmにある水田と畑地がひろがる平坦な微高地に位置する。北側と西側は五ヶ瀬川に接し、河川の蛇行による堆積物で形成された地形にあたり、古くから洪水によって影響を受けた地域とみられ、昭和18年の水害でも周辺に大規模な氾濫があった記録が残っている。周辺には、南西約 200mの地点に県北最大の家形石棺などを有する国史跡南方古墳群野田支群が立地するなど、遺跡の立地環境として良好な地域にあたり、水田跡若しくは畑地跡の可能性が予想される地域となっている。

Fig 9　飯島遺跡位置図
(1/50000)

(2)　調査の概要

調査対象地は、畑地であるが宅地開発が進んでいるため調査可能地が限定された。このため、調査箇所については、区画整理事業計画に伴う公有地化が終了している地点を選定し、8ヶ所について重機によるトレンチ方式で実施した。調査の過程において当初予想していた以上に砂質土が多いことから、危険防止の為、トレンチ幅を拡大して行うとともに、水田跡等の有無の確認のため、プラントオパール分析を株式会社古環境研究所に委託した。

調査の結果、遺物は検出されなかったが、第2、3、4地点を除いた地点から河原石の洪水堆積層が検出され、予想以上に洪水の影響が見受けられることが判った。以下、各地点毎にその概要を述べる。第1地点は、標高約 7.5mを測り、2ヶ所トレンチを入れた。昔は西側に位置する五ヶ瀬川に向かって周辺よりも低かったようで、地下 1.2mから約3mにかけて河原石堆積層が5層確認され、時期は不明であるが洪水などによる旧河道が存在していたことが判った。第2、第3地点は標高約7mにあたる。深さ約3～ 3.5m掘り下げたところ、河原石堆積層は検出されず、砂質土及び粘質土が互層で認められた。また、標高約 5.2mの有機物を多く含有する暗褐色粘質土の上位からイネのプラントオパールが検出された。第4地点は、調査地対象地の最東端にあたり東側は水田が所在する。標高は約 7.5mで、2ヶ所トレンチを入れ、深さ 3.2mまで掘削したところ、いずれも砂質土が検出され、遺構等は検出されなかった。第5、第8地点は、五ヶ瀬川のすぐ東側に位置し、標高約 6.8mを測る。いずれも表土直下から河原石堆積層が何層にも

わたり検出された。第６地点は、調査対象区のほぼ中央付近に位置し、標高約７ｍにあたる。表土直下の標高約６ｍ付近から河原石堆積物がみられ、その下層は粘質土層と砂層が確認された。また、標高約4.4～5.3ｍの暗褐色粘質土からプラントオパールが検出された。第７地点は、標高約９ｍにあたり、同地区内でも最高位にあたる。表土直下の標高約８ｍ及び 4.4ｍからは河原石堆積物が検出された。標高 6.6ｍの暗褐色粘質土からプラントオパールが検出された。

なお、プラントオパール分析結果の概要については以下のとおりである。№１、２、３、４、６、７地点の分析の結果、№４を除いて、標高約５～ 6.6ｍ前後の土層から少量ながらイネのプラントオパールが検出され、調査地点若しくは、その周辺において稲作が行われていた可能性が認められた。イネの密度が低い原因としては、１）稲作が行われた期間が短かったこと、２）洪水などによって耕作土が流出したこと、３）土層の堆積スピードが速かったこと、４）イネの生産性が低かったことなどが考えられるが、ここでは土層の堆積状況などから、洪水などの河川の影響が大きかったものと考えられる。また、当時の調査区周辺は、ススキ属やチガヤ属、ネザサ節、ヨシ属などが少量見られるイネ科植生を主体とし、周囲ではシイ属やイスノキ属などの照葉樹についても生育していたものと推定される。

以上のように、一部について水田跡等の埋蔵文化財の可能性を裏付ける結果となったことから、更に詳細な水田跡遺構の分布範囲について調査を進めるとともに、今後の事業計画に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて、関係課所と十分な協議を進めていく必要がある。　　（山田）

Fig 10　飯島遺跡調査区配置図　　(1/5000)

検出密度（単位：×100個/g）

分類群＼試料	No.1地点									No.2地点														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
イネ	15	7	15				8				8													
オオムギ族（穎の表皮細胞）																								
キビ族（ヒエ属など）																								
ヨシ属		7								8		8		8										
ウシクサ族（ススキ属など）	15	7		15				7	15	38	23	15	31		7	23	8	8	8	15	22	8	22	15
タケ亜科（おもにネザサ節）	22	97	76	22	97	15	84	22	23	15	31	23	16	8		15	15					8	30	7

推定生産量（単位：kg/㎡·cm）

イネ	0.44	0.21	0.44				0.24				0.22													
ヨシ属		0.44								0.48		0.48		0.47										
ウシクサ族(ススキ属など)	0.19	0.09		0.19				0.09	0.19	0.47	0.28	0.19	0.39		0.09	0.29	0.10	0.09	0.09	0.19	0.28	0.09	0.28	0.18
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.11	0.47	0.36	0.11	0.47	0.07	0.40	0.11	0.11	0.07	0.15	0.11	0.08	0.04		0.07	0.07					0.04	0.14	0.04

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

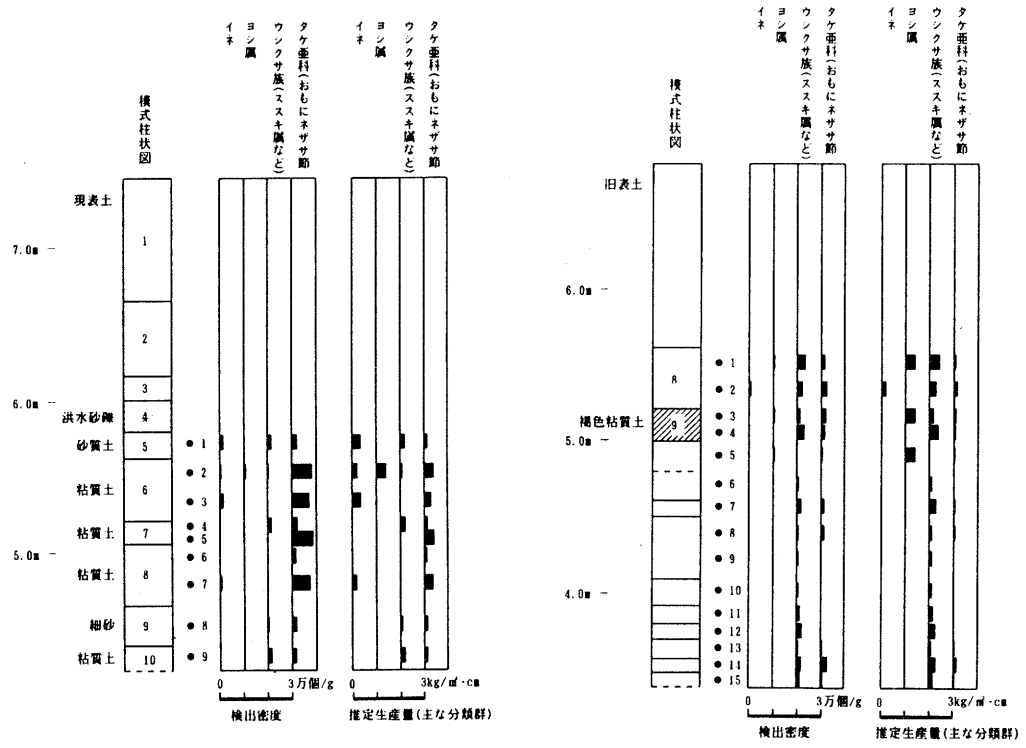
検出密度（単位：×100個/g）

分類群＼試料	No.3地点				No.4地点			No.6地点											No.7地点						
	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1	2	3	4	5	6	7
イネ			8							8			8			8						15			
オオムギ族（穎の表皮細胞）								8																	
キビ族（ヒエ属など）																									
ヨシ属										15					8										
ウシクサ族（ススキ属など）	15			15	23			30	8	38	15	8	30		8	22		15	8	38	8	15	30	15	15
タケ亜科（おもにネザサ節）	30		8	30		23	15	8		30	22	8	8		8	38	22		15		8	38	8	15	

推定生産量（単位：kg/㎡·cm）

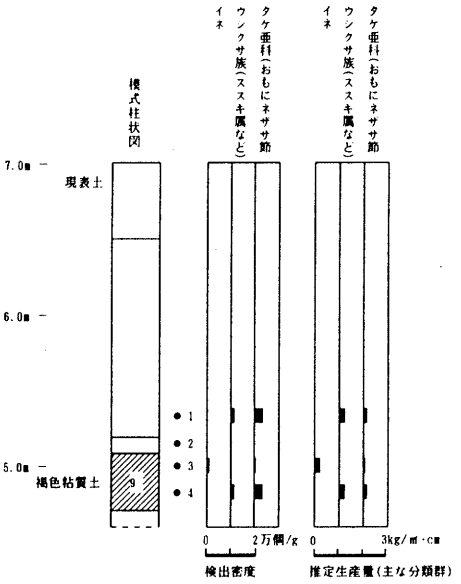
イネ			0.23							0.24			0.24			0.24						0.44			
ヨシ属										0.95					0.50										
ウシクサ族(ススキ属など)	0.19			0.19	0.28			0.37	0.10	0.47	0.19	0.10	0.37		0.10	0.27		0.19	0.10	0.47	0.10	0.19	0.37	0.19	0.19
タケ亜科(おもにネザサ節)	0.14		0.04	0.14		0.11	0.07	0.04		0.14	0.11	0.04	0.04		0.04	0.18	0.11		0.07		0.04	0.18	0.04	0.07	

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

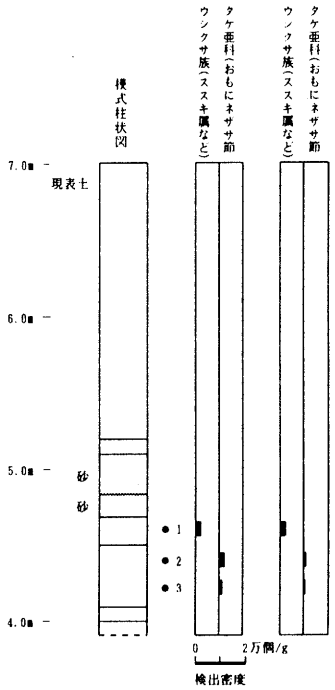


第1地点　　第2地点

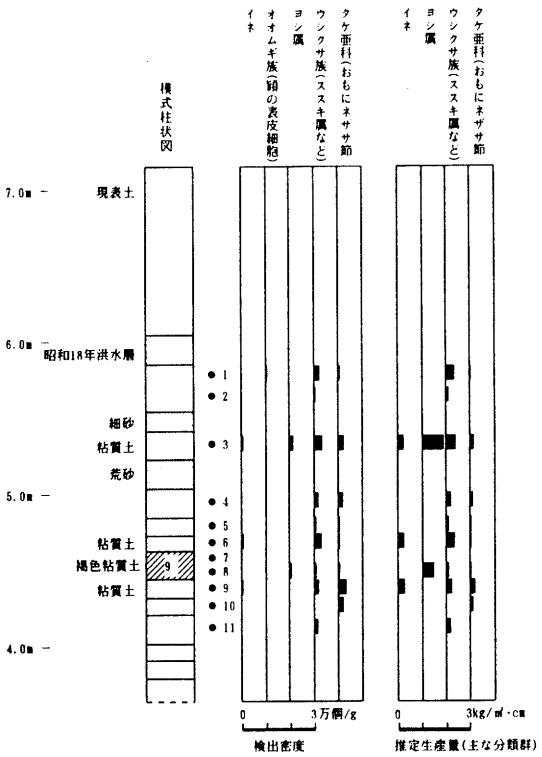
Fig 11　飯島遺跡珪酸体分析結果　1　　(1/50)



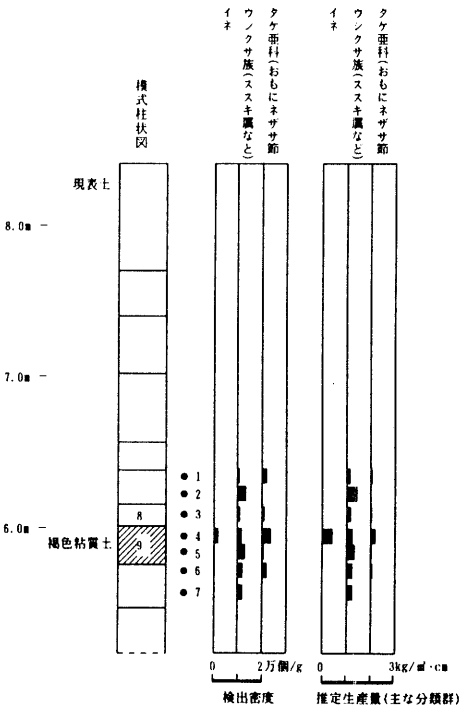
第3地点



第4地点



第6地点



第7地点

Fig 12　飯島遺跡珪酸体分析結果　2　　(1/50)

5．上ノ坊遺跡

所 在 地	延岡市富美山町85-4外	調査面積	56.5㎡
調査原因	宅地造成	担 当 者	尾方・高浦
調査期間	950821～950831	処　　置	本調査

(1)　位置と環境

当遺跡は、市内を西から東に流れる五ヶ瀬川と祝子川に挟まれた丘陵で、標高は約60mを測る。この丘陵は岡富山の一角とみられているが、近年の団地開発により丘陵を分離されている。調査地の南には今山八幡宮、北には県指定の樫山古墳群が立地する丘陵を望める。眼下には市街地が一望でき、その東に日向灘を望む絶好の位置に立地している。当遺跡の周辺は古くから埋蔵文化財包蔵地として知られ、今山八幡宮の墓地には、県指定延岡古墳6号墳が所在していた。また、岡富山の南には横穴墓の延岡古墳群34号墳が所在し、勾玉2点が出土している。その東約 1.7kmには古川古墳が所在しており、阿蘇溶結凝灰岩製の石棺から、約19cmの非常に大きな鉄鏃4本と短甲（三角板革綴）の一部が出土している。また、祝子川を挟んだ北東約1.25kmの樫山丘陵には、前方後円墳2基を含む樫山古墳群が分布している。調査は大正14年、昭和25、45年の3回に行われ、特に昭和25年に調査されたA号墳からは、小札鋲留衝角付冑や短甲残片、頸甲、内行花文鏡、勾玉、小玉、直刀、鉄鏃が出土している。

Fig 13　上ノ坊遺跡位置図

(1/15000)

(2)　調査の概要

現存する丘陵は、標高約62mと約60mを中心とした、西から東にのびる2本の舌状の丘陵で、馬蹄形を成している。この標高約62mの頂上部をA地区、標高約60mを中心とする丘陵をB地区とし、トレンチによる土層観察と遺構検出に主眼をおき、調査を実施した。トレンチは、A地区に3ヶ所、B地区に4ヶ所設定した。

調査の結果、A地区から古墳時代のものと思われる土壙墓が1基検出された。この土壙墓は、地山に堀り込まれており、その両端に

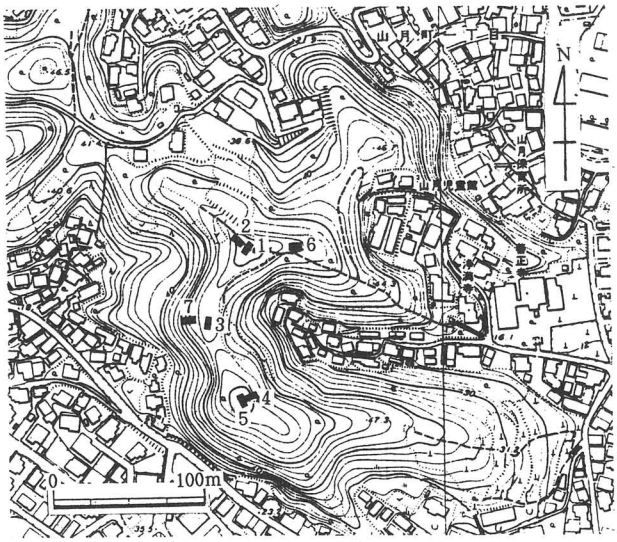


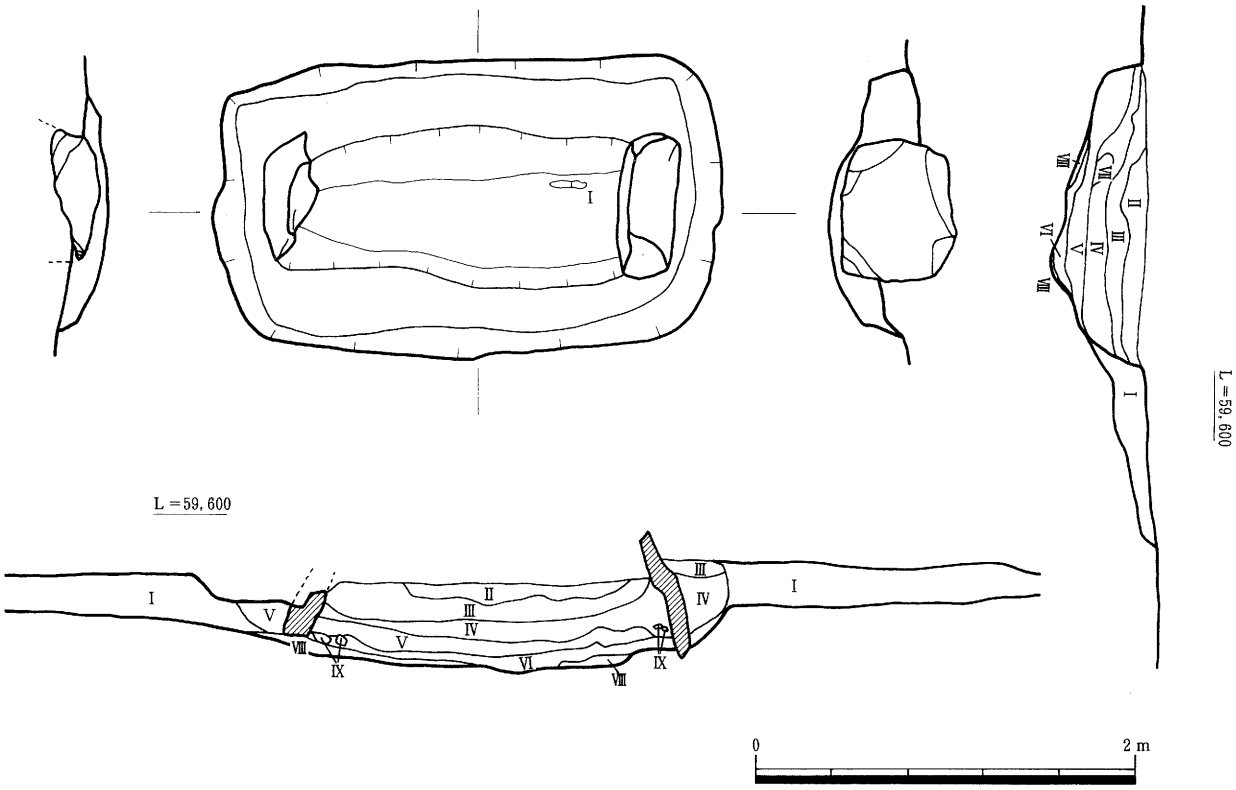
Fig 14　上ノ坊遺跡調査区配置図

(1/5000)

は千枚岩（緑色岩）が立石されていた。土壙墓は、東西方向を主軸とし、そのプランは長さ2.67m、幅1.55m、深さは地山から45cmで、長方形を成していた。両立石の間は1.57mを測り、深さ35cmの位置で短剣が１点検出された。この短剣は残りが悪く、正確に測れるところで長さ19.5cm、幅 2.5cmであった。

Ｂ地区に設定した、トレンチ３・７から遺構、遺物は検出されなかった。しかし標高約60mの丘陵頂上部に設定した、トレンチ４から鉄鏃が１点、５からは高坏の脚部片１点、ミニチュア状土器１点等の遺物が出土した。

このことから、宅地造成が予定されている丘陵は、埋蔵財文化包蔵地と確認され、申請者と協議の結果、文化財保護法に基づき発掘調査を行い、調査経費は申請者が負担することとなった。発掘調査は、平成７年10月９日～同12月５日にかけて行った。なお、上ノ坊遺跡の本報告書は、平成８年度に刊行予定である。（高浦）



Ⅰ層　黄褐色土＋淡赤銅色土（２～３cm大の山レキを多量に含む）
Ⅱ層　淡褐色土（やや黄味がかる）
Ⅲ層　淡黄褐色土
Ⅳ層　淡黄褐色土（Ⅲ層より柔らかい）
Ⅴ層　黄褐色土（やや粘性を帯び、赤銅色の鉄分を所々に含む）
Ⅵ層　黄白色弱粘質土（４～５cm大の山レキが混じる）
Ⅶ層　赤灰色粘質土（炭化物を含む）
Ⅷ層　黄白色粘質岩土
Ⅸ層　灰色粘土

Fig 15　上ノ坊遺跡Ａ地区土壙墓実測図

(4)　出土遺物

1は、A調査地区（土壙墓）より出土した短剣である。長さ19.5cm、幅 2.5cm（現存部分）を測る。柄の部分には木片が遺存しており、鞘口と柄口の痕跡の線が残っている。また、目釘穴が1つあいている。

2は、B調査地区（トレンチ4）より出土した鉄鏃（短茎の三角形鏃）である。全長 4.9cm、鏃身部幅 4.6cm、鋒から頸部端までの長さ 4.4cmを測り、逆刺の内側に重抉をつけたものである。重量は10.9gである。

3は、B調査地区（トレンチ5）より出土した高坏の脚部である。底部径は6cmを測り約1／2が残存している。胎土は砂粒を含み、焼成は不良である。断面はサンドイッチ状を呈している。外面・内面とも風化がひどく、調整は不明である。（高浦）

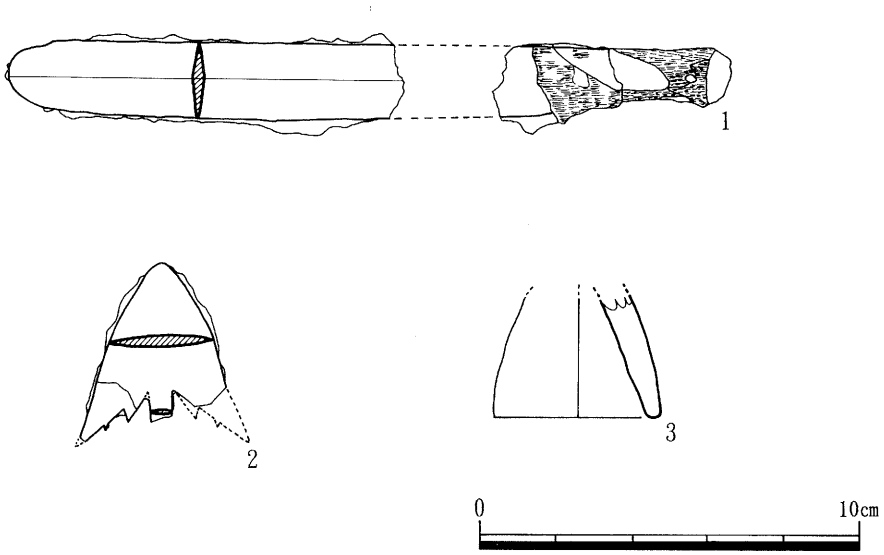


Fig 16　上ノ坊遺跡出土遺物実測図

6．宮畑遺跡

所在地	延岡市大貫町6丁目1875	調査面積	14㎡
調査原因	公民館建設	担当者	山田・高浦
調査期間	950918～950921	処　置	工事立会い

(1)　位置と環境

当遺跡は、五ヶ瀬川と大瀬川に挟まれた中州に位置し、西側には大貫神社が隣接する。この大貫神社は、昭和4年に鳥居龍蔵氏によって調査が実施されており、著書の「上代の日向延岡」のなかで、「立派なストーンサークル、すなわち磐境であり、この一番高いところを神聖な場所として、その周囲に磐境を造ったものであるか、あるいは今神社のある所は、古墳の主体のあるところで……」と紹介されている。また、調査地から約200m離れた低丘陵には、国指定南方古墳群である24～31号・39号（大貫支群）が立地しており、この大貫地区は、いわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」として取り扱われている。

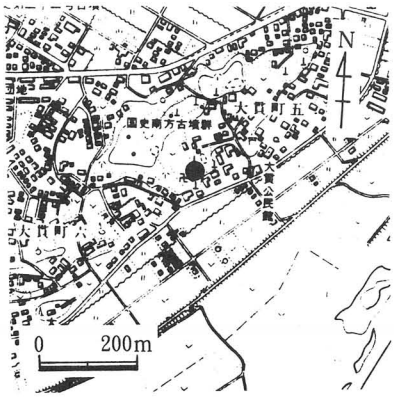


Fig 17　宮畑遺跡位置図
(1/15000)

(2)　調査の概要

発掘調査は、鳥居龍蔵氏の指摘を踏まえ、周溝確認・土層観察に主眼を置き、トレンチ法により調査を実施した。トレンチ1は大貫神社に対しほぼ南北に、トレンチ2は垂直に設定した。トレンチ1は約90㎝の客土が確認され、Ⅲ層から阿蘇溶結凝灰岩の破片が多数検出された。これは調査地付近に所在していた石切り場のものと思われる。また同層から以前あった社務所の瓦片も多量に検出された。Ⅳ層からは縄文土器片が1点検出された。トレンチ2では、約40㎝掘り下げた地点（Ⅲ層）から、トレンチ1同様に多量の瓦片が検出された。Ⅴ層は溝状遺構とみられ、縄文時代晩期のものとみられる土器片が数点検出された。しかし、規模・状況からみて、これが古墳の周溝であるとは考えられないと思われた。

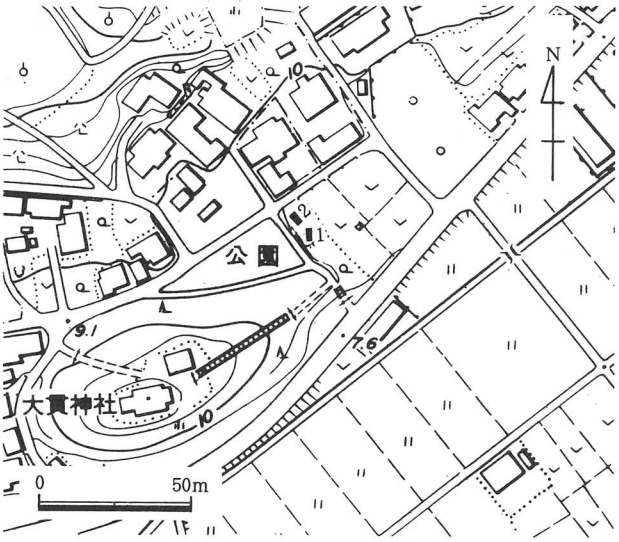


Fig 18　宮畑遺跡調査区配置図（1/2500）

このことから、予定地には文化財が包蔵することが確認されたが、以前実施された掘削および

埋土によって遺跡の多くが破壊されていることから、申請者に文化財保護法第57条の２第１項に基づく書類の提出を指示した。

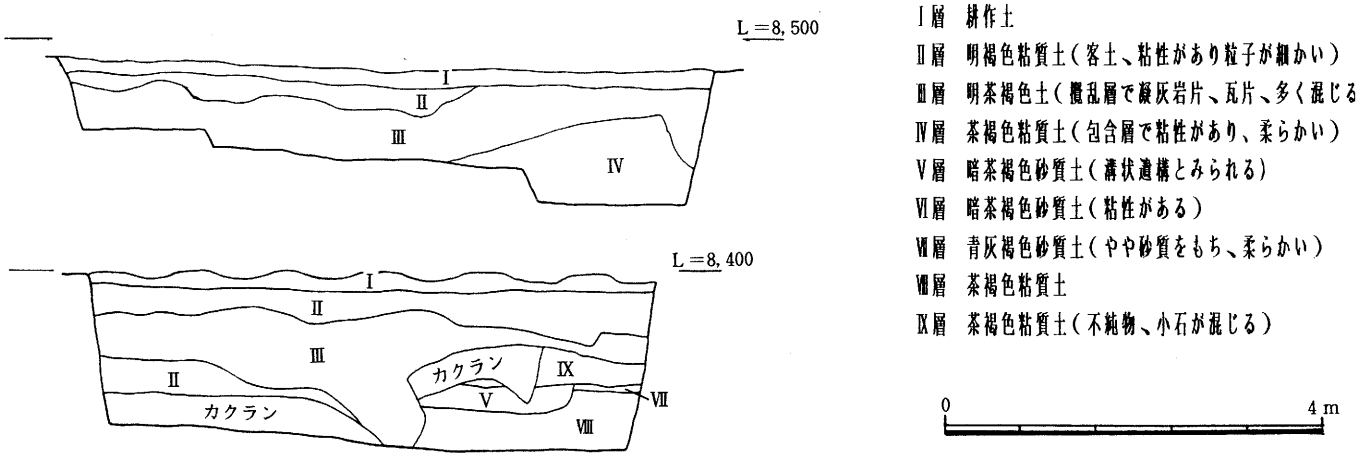


Fig 19　宮畑遺跡トレンチ１・２土層断面図

(3)　出土遺物

１、２は縄文土器の深鉢である。口縁部下に三角凸帯をめぐらす。１は口縁上端に粘土を貼りつけ突起部を設けている。色調は暗茶褐色を呈し、胎土は良好で、内外面にススが付着している。調整は、丁寧なナデ調整である。２は淡茶褐色を呈し、胎土は粗い。調整は、風化がはげしく不明である。　（高浦）

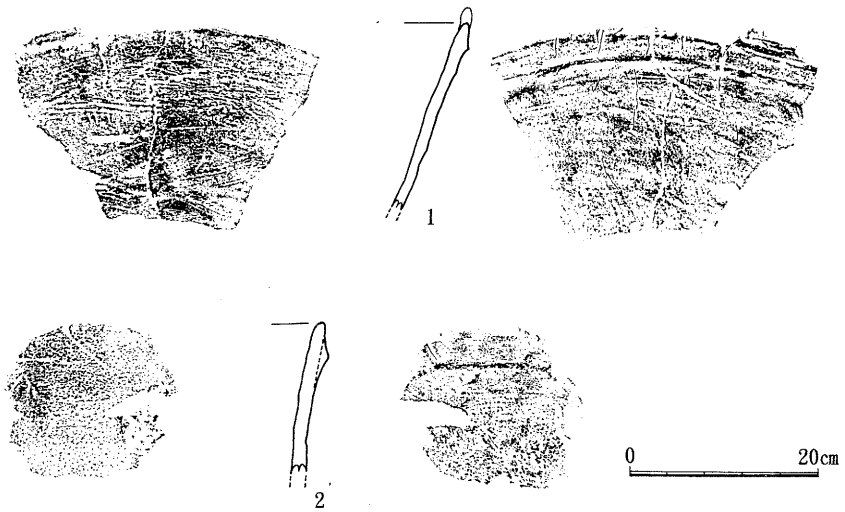


Fig 20　宮畑遺跡出土遺物実測図

7．堂ノ脇遺跡

所 在 地	延岡市牧町4633番地外	調査面積	10㎡
調査原因	宅地造成	担 当 者	山田・高浦
調査期間	９５０９２６	処　　置	工事立会い

(1)　位置と環境

当遺跡は、祝子川と北川によって形成されたデルタ地帯で、市内中心地から北東約２㎞の地点に位置する。周辺には水田、畑が営まれ、東には、北川から分かれた友内川が延岡港に注いでいる。当遺跡は、牧神社（県指定14号墳）から北西約 300ｍの地点で、周辺の粟野名町、柚の木田町、大門町には延岡古墳群（県指定、12、13、15、16号墳）が点在している。牧町を含むこの東海地区は、いわゆる「周知の埋蔵文化財包蔵地」として取り扱われている。また、調査地点はもともと水田であったが、数年前から休耕されており、湿地帯になっていた。

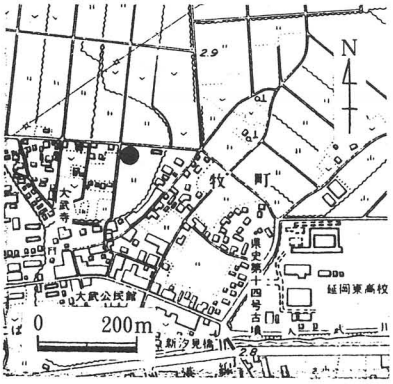


Fig 21　堂ノ脇遺跡位置図
(1/15000)

(2)　調査の概要

発掘調査は、調査地が湿地帯で湧水がひどく、土層が崩落する危険性があることから、重機によるトレンチ法を採用した。トレンチは、比較的調査に影響のない部分（３ヶ所）について実施した。確認調査は、掘削部分への流水がひどく困難を極めた。このため、掘削した土を観察・調査する方法をとった。当遺跡の基本層序は次のとおりである。第Ⅰ層耕作土（20㎝～30㎝）、第Ⅱ層茶褐色粘質土（50㎝）、第Ⅲ層青灰色砂土（約１ｍ）、第Ⅳ層青灰色砂礫土（20㎝以上）である。トレンチ１・２は、約２ｍの地点で、第Ⅲ層まで確認されたが、遺構・遺物等は確認されなかった。トレンチ３は、約２ｍの段階で第Ⅳ層まで確認され、第Ⅲ層からは、木ぐいと土器片１点が検出された。

このことから、予定地には文化財が包蔵することが確認されたが、①出土地層が砂層であり、ローリングを受けていることから、上流域からの流れ込みの可能性が高い。②出土遺物が１点である。③湿地帯であるため、調査が大変困難になることが予想される。上記の理由から、申請者に文化財保護法第57条の２第１項に基づく書類の提出を指示した。

今回の調査により、調査地周辺は埋蔵文化財包蔵地であることがより明らかになり、今後の開発等には注意を要しなければならない。

（高浦）

8．巣山遺跡

所在地	延岡市川島町4172番地外	調査面積	5㎡
調査原因	宅地造成	担当者	山田・高浦
調査期間	950926	処置	調査後破壊

(1) 位置と環境

当遺跡は、大分県内の山地を源流とする北川が大きく湾曲して流れている、その下流域に発達する扇状地性三角州上に位置し、現在、ここには水田地帯が広がっている。周辺地区の鹿小路には、古墳が存在していたと言われており、南部の無鹿町の丘陵（妻耶大将軍神社）には、県指定24号墳が所在している。この丘陵には十数基の石棺、横穴の存在が確認されており、文政年間（1818～29年）には、石棺が掘り出されて刀子が出土したとの記録がある。当遺跡から北川を挟んだ対岸、国道10号線の和田越トンネルを大分側へ抜けた川沿いには、県指定17号墳が所在しており、さらに進むと差木野遺跡包蔵地が広がっている。北部に連なる山丘には、県名勝那智の滝があり、自然環境豊かなところである。

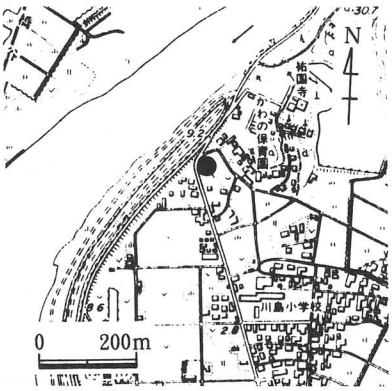


Fig 22　巣山遺跡位置図
(1/15000)

(2) 調査の概要

調査地周辺は、約１m～ 1.5mの盛土が施されていた。調査は、盛土が施されていない部分について行った。調査法は、重機によるトレンチ法を採用し、土層観察に主眼をおいた。調査の結果、約３mの客土が確認され、その下層からは粘土質の土壌が検出された。しかし、遺構・遺物等は確認されなかった。

周辺住民への聞き取り調査を実施したところ、調査地は以前、池（水田用溜池）が存在していたということであった。

今回確認調査を行った川島地区は、近年の宅地開発の波が押し寄せている。今回の調査地は溜池の部分にあたり、遺跡の所在は確認できなかったが、周辺地における埋蔵文化財の包蔵の可能性は高く、今後の調査による資料の増加が見込まれる。（高浦）

9．光蓮寺遺跡

所 在 地	延岡市大貫町２丁目1080番１外	調査面積	10㎡
調査原因	ガソリンスタンド建設	担 当 者	山田・高浦
調査期間	951025～951026	処　　置	調査後破壊

(1)　位置と環境

当遺跡は、五ヶ瀬川と大瀬川に挟まれた低地に所在している。遺跡の南西約 700mには、国史跡南方古墳群の大貫支群及び県内最古といわれている大貫貝塚が所在する。また、西側に位置する低丘陵地帯には野田・野地支群、野田町八田遺跡、西階城跡等の遺跡が数多く分布している。

現在、水田地帯が広がっている当地は、縄文海進後に低湿地帯が広がっていたことが考えられる。このことから、古代水田跡の可能性が充分に予想された。

Fig 23　光蓮寺遺跡位置図
(1/15000)

(2)　調査の概要

調査は、水田跡の検出に主眼をおきトレンチ法を採用した。開発予定地の東西にそれぞれ１ヶ所のトレンチを設定した。

調査の結果、現在の水田面（第Ⅰ層）の下より機械耕作以前の水田層（第Ⅲ層）が検出された。層厚は約60㎝に達する。第Ⅳ層は粘質土がみられ、その上位から江戸時代後半～明治時代の肥前（佐賀県）系の陶磁器片が出土し、第Ⅴ層には、層厚約70㎝に及ぶ良好な砂礫層が確認された。その下層は礫層や砂層等が交互にみられ、江戸時代以前には周辺に五ヶ瀬川の流れが存在していたと推察された。

今回の調査では、古代水田面の検出には至らなかった。しかし、当地周辺の立地は水田跡及び集落跡等の検出が予想されるため、今後の開発にも十分な調査が必要である。　　（高浦）

10. 上無田遺跡（第２次）

所 在 地	延岡市野地町１丁目2508-1外	調査面積	37.5㎡
調査原因	宅地造成	担 当 者	尾方・高浦
調査期間	960213～960219	処　　置	協議

(1)　位置と環境

当遺跡は、国指定史跡南方古墳群第33号墳の立地する丘陵から、南東に向かってなだらかに傾斜していく丘陵上に位置する。ここは、近年宅地開発による掘削により現在では、舌状の丘陵を成している。調査地からは、眼下に水田地帯を一望でき、水田との比高差は約20mである。また東約 600mに国史跡第24～第31号、第39号（大貫支群）、大貫貝塚が所在する丘陵が眼前に広がり、北約 200mには国史跡第32号墳が立地する「丸塚山」と称される丘陵が望める。この第32号墳は、昭和４年に鳥居龍蔵氏により発掘調査が行われており、鉄製円盤、鉄製の鐸、虎頭鈴３個、小刀子、鉄釘が出土している。この調査は、鳥居龍蔵氏著書の「上代の日向延岡」に大貫丸塚山有木棺古墳と記されている。調査地は、遺跡の分布状況および第33号墳に隣接していることから、「周知の埋蔵文化財包蔵地」として取り扱われている。また、第33号墳北側は市道改良に伴う埋蔵文化財発掘調査が行われており、延岡市文化財調査報告書第13集に記されている。

Fig 24　上無田遺跡(第２次)位置図 (1/15000)

(2)　調査の概要

現存する丘陵は標高約20mで、第33号墳の立地する、北西から南東に延びる舌状の丘陵である。この丘陵をＡ地区、Ｂ地区、Ｃ地区と設定した。調査は、グリッド法を採用し、土層観察と遺構検出に主眼をおいた。また33号墳周辺に残る旧地系２箇所にトレンチ各１本の計２本（トレンチ１・２）、宅地造成にかかる開発予定地（進入道路）についてトレンチを２本（トレンチ３・４）を設定した。

Fig 25　上無田遺跡(第２次)調査区配置図 (1/1875)

調査の結果、まず伐採後の表採により縄文土器片、土師器片の分布が３地区において確認された。Ａ、Ｂ、Ｃ地区の基本層序は次のとおりである。第１層黒褐色土（耕作土）、第２層茶褐色土、第３層暗橙褐色土、第４層暗黒褐

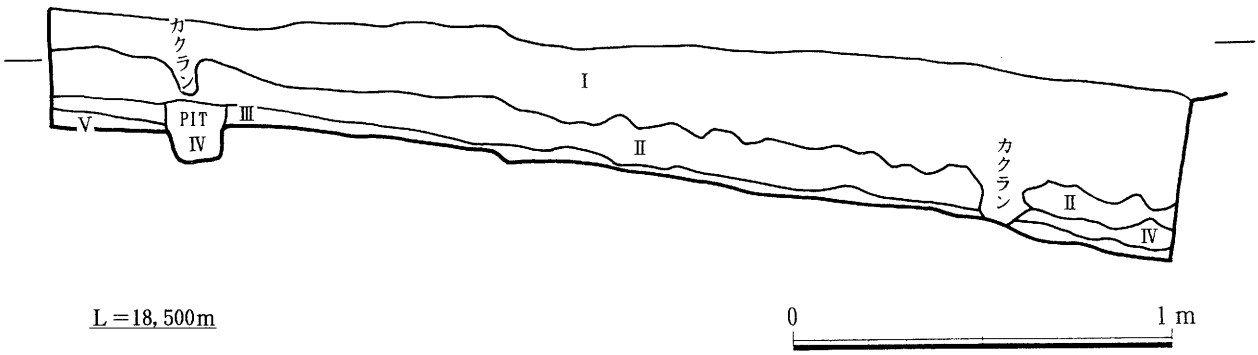
色土（阿蘇－４漸移層）、第５層橙褐色土（阿蘇－４堆積層）。Ａ地区では縄文土器片・土師器片が出土したが、遺構等の検出はされなかった。Ｂ地区では、第３層から黒曜石・チャート・縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器片が集中して出土し、柱穴が４箇所確認された。また、第４層直上より川石が数個散在しており、黒曜石数点が検出された。Ｃ地区では、Ａ地区同様に遺構等の検出はできなかったが、少量の土器片・黒曜石１点が検出された。33号墳周辺に残る旧地系に設定したトレンチ１から須恵器片（６Ｃ後半）が検出され、33号墳との関連性について重要な資料を得ることができた。トレンチ２からは、遺構・遺物等の検出はできなかった。進入道路に設定したトレンチ３・４は、約５㎝程の埋土がなされており、その下からは、阿蘇－４堆積物とみられる非常に硬い土層が検出され、遺構・遺物等は全く検出されなかった。

今回の調査により、33号墳周囲はかなりの削平をうけ、当時の規模がどれくらいのものであったか、確認することは永久に不明であり、非常に残念であるが、現存する舌状の丘陵には旧石器～古墳時代の遺構・遺物が包蔵することが確認され、今後申請者と本調査の必要性について協議を行っていく予定である。

(3)　出土遺物

１、２は黒曜石の剝片である。１は佐賀県腰岳産、２は長崎県大崎産のものと思われる。延岡市では姫島産が主であるため、この２種類の黒曜石は非常に珍しいものである。３は縄文土器で、口縁部下に比較的大きな突起部をもつ。４は深鉢で口縁部下に三角凸帯をもつ。５は黒色磨研土器の浅鉢で、内外面とも口縁部下に１条の沈線をめぐらす。６、７は黒色磨研土器の浅鉢である。７は口縁部下に一条の沈線をめぐらす。８、９は須恵器の坏身で、時期は６Ｃ後半のものと思われる。10は須恵器の壺で外面はヘラ削り、内面胴部はナデ調整で、くびれ部分は不定ナデ調整である。

（高浦）



Ⅰ層　黒褐色土（耕作土。サラサラしている）
Ⅱ層　茶褐色土（サラサラしている）
Ⅲ層　暗橙褐色土
Ⅳ層　暗黒褐色土（Ａｓｏ－４漸移層）
Ⅴ層　橙褐色土（Ａｓｏ－４堆積層）
Ⅵ層　黒褐色粘質土

Fig 26　上無田遺跡（第２次）Ｂ地区土層断面図

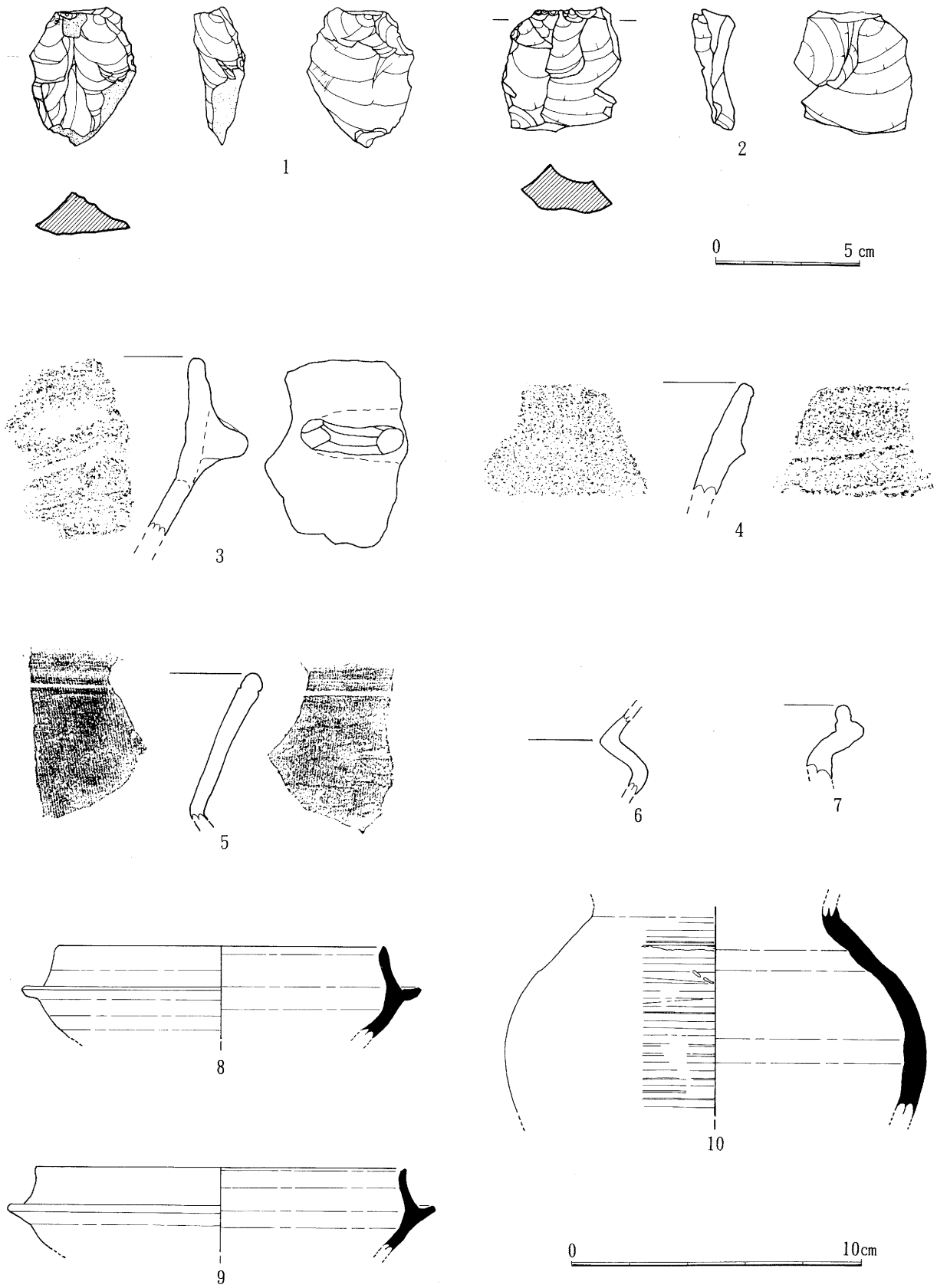
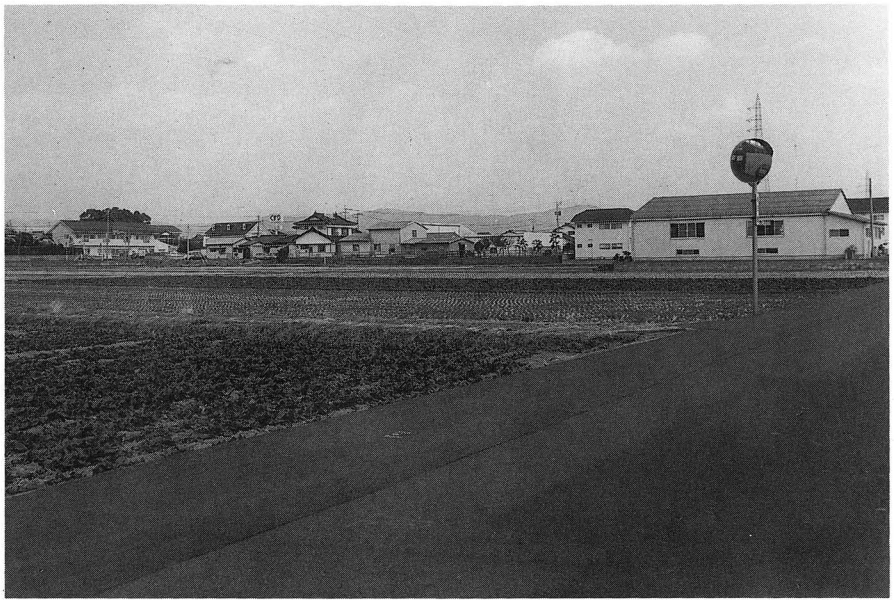
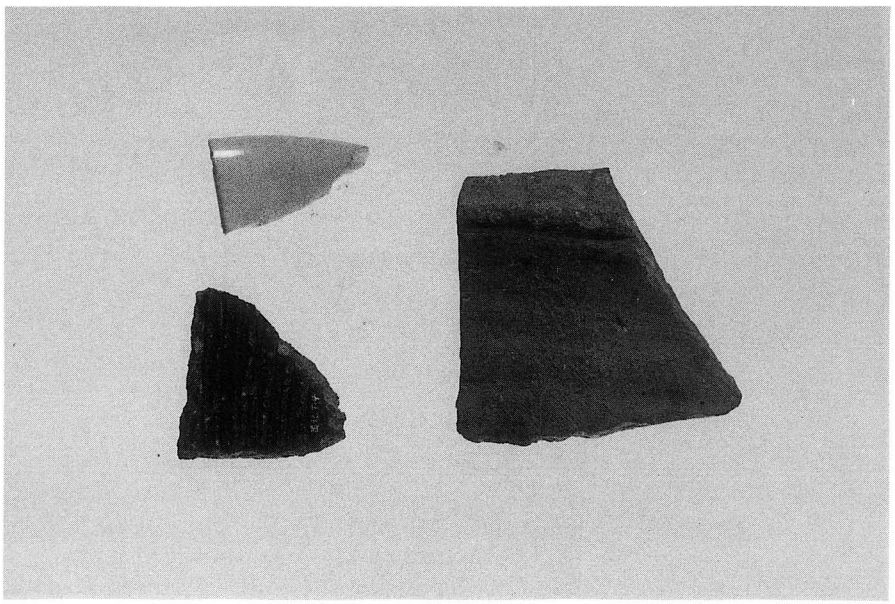


Fig 27　上無田遺跡（第２次）出土遺物実測図



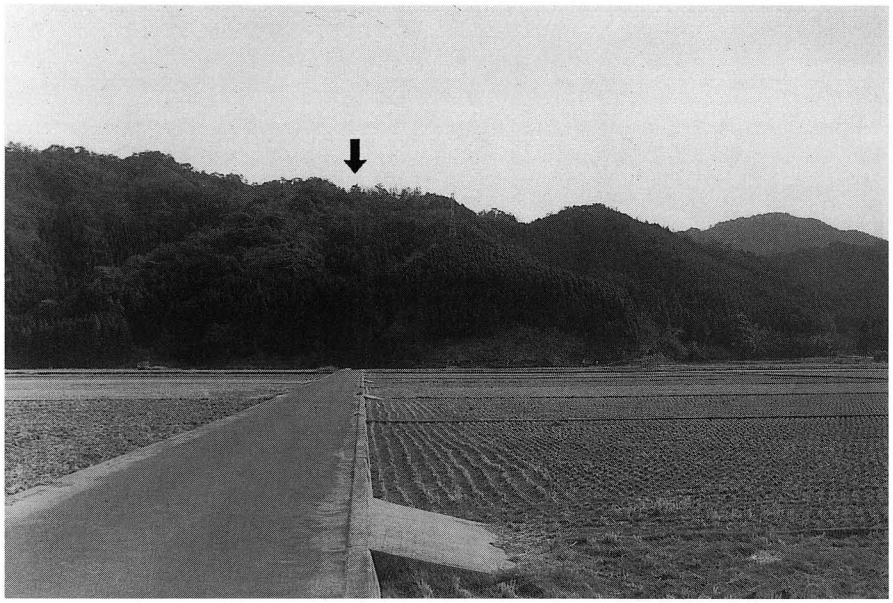
調査地近景
（南西から）

調　査　風　景

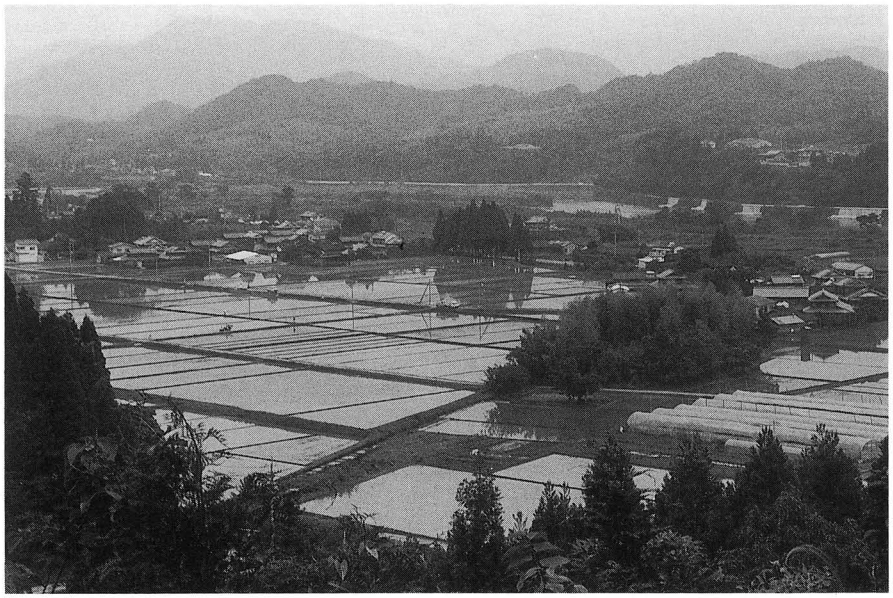


出　土　遺　物

松ノ元遺跡



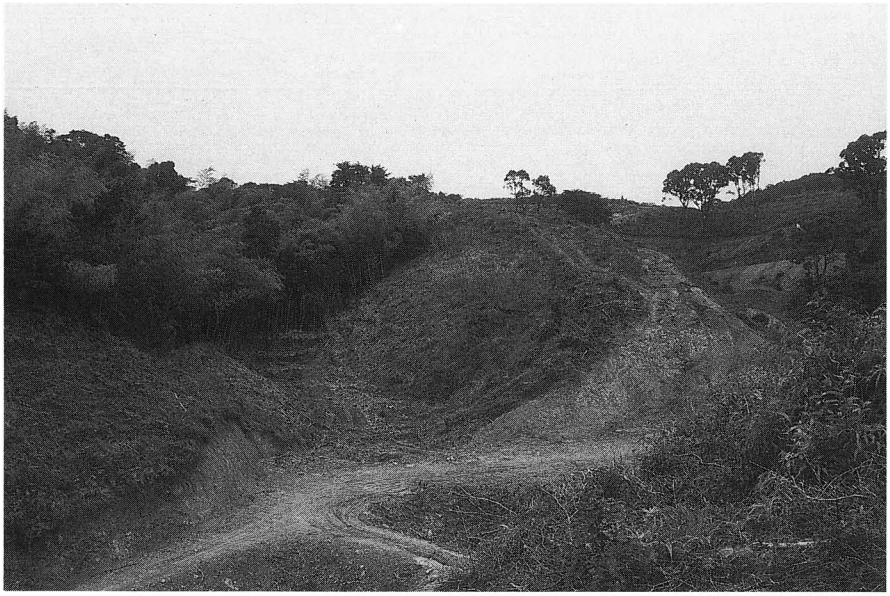
調査地遠景
（北方から）



調査地より
下三輪の集落を望む

調　査　風　景

A地区全景



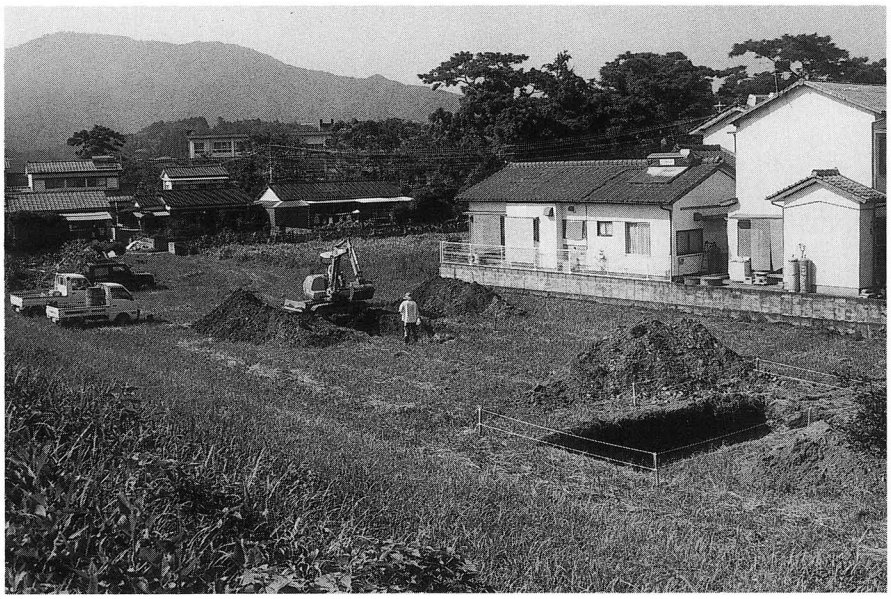
B地区全景

C地区調査風景

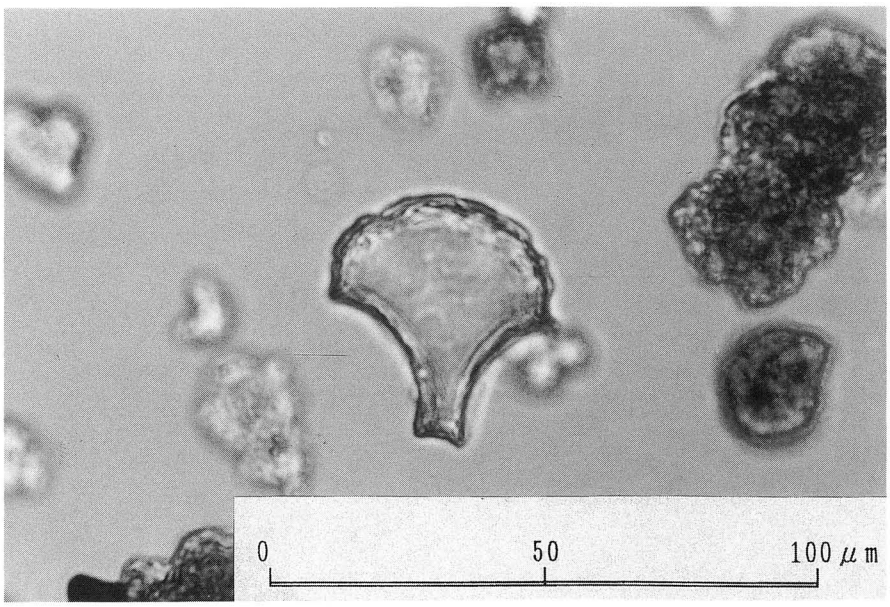
飯島遺跡

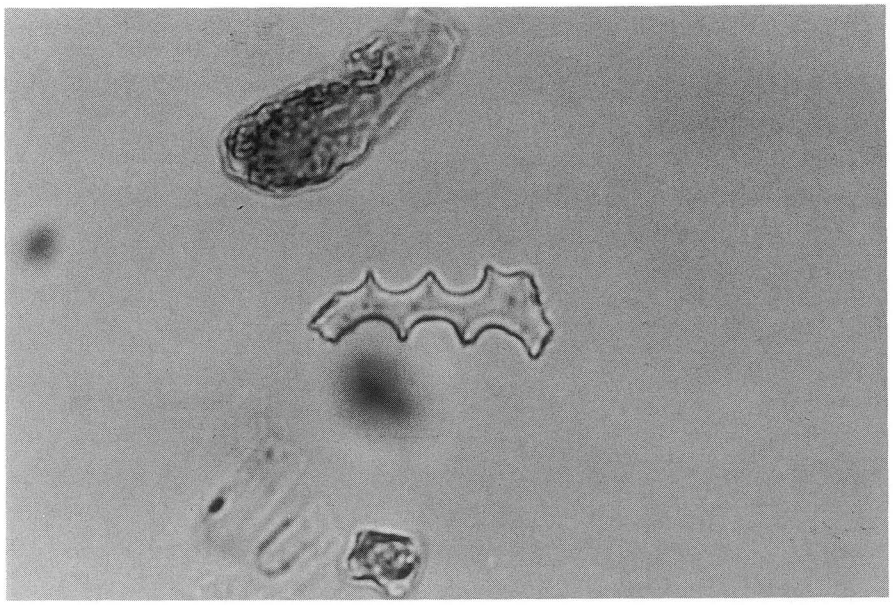
調査地遠景
（東方から）

調査風景第８地点

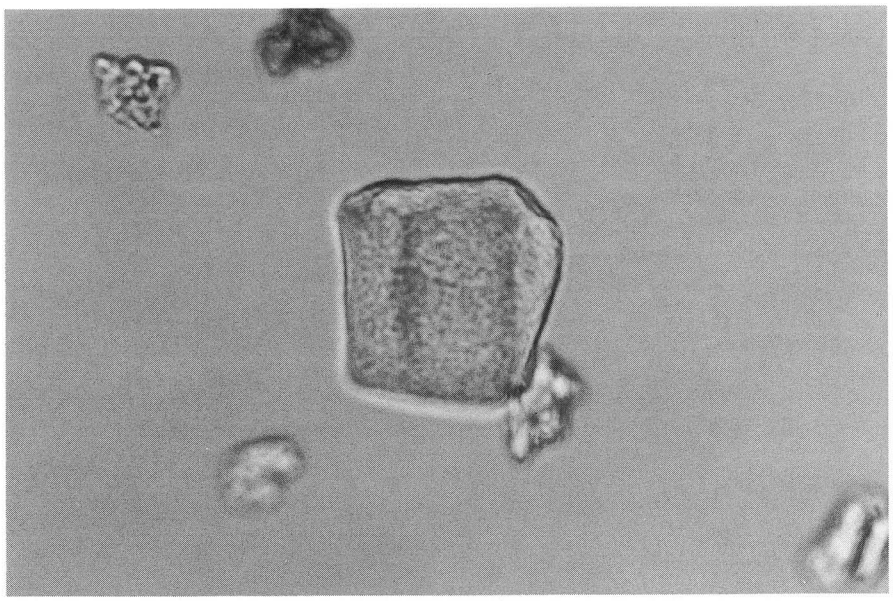


植物珪酸体の顕微
鏡写真　（400倍）

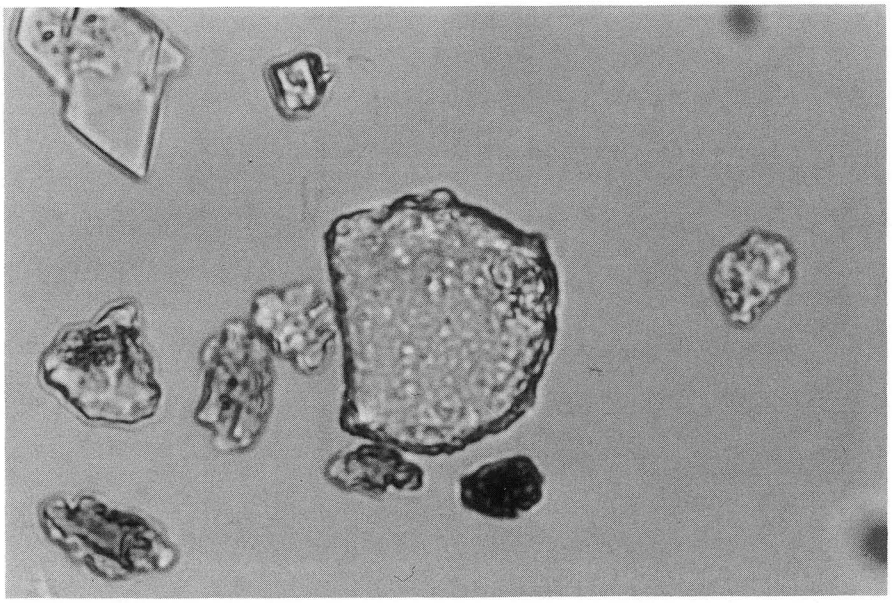




植物珪酸体の顕微鏡
写真　　(400倍)
オオムギ族（穎の表皮細胞）
第6地点1



植物珪酸体の顕微鏡
写真　　(400倍)
ウシクサ族（ススキ属など）
第6地点8



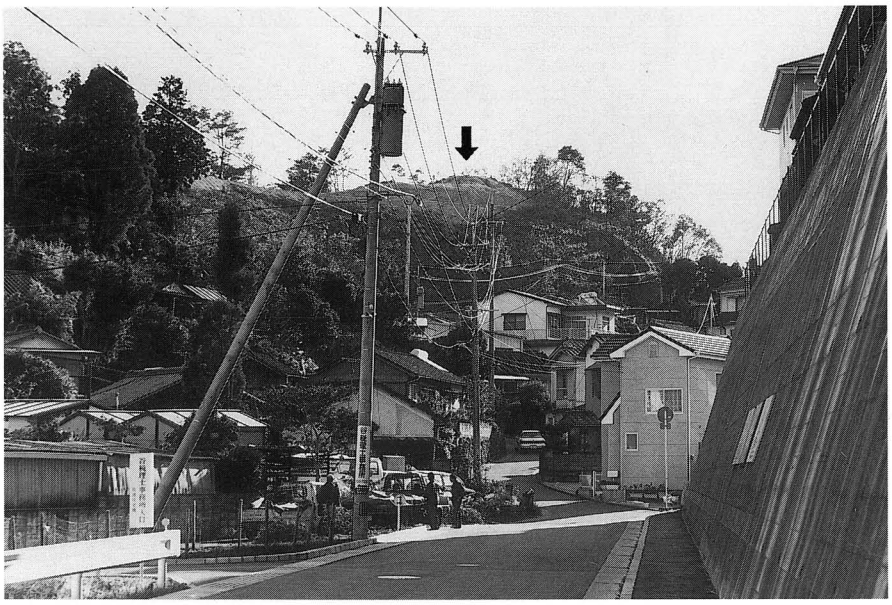
植物珪酸体の顕微鏡
写真　　(400倍)
クマザサ属型
第6地点10

上ノ坊遺跡

A地区遠景
（東方から）

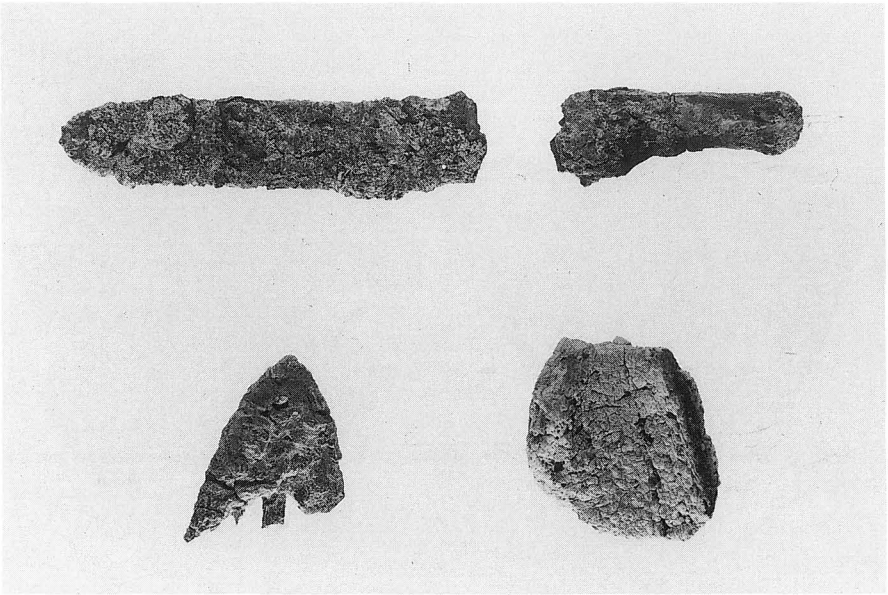
調　査　風　景
（A地区）

A地区土壙墓



B地区遠景
（西方から）

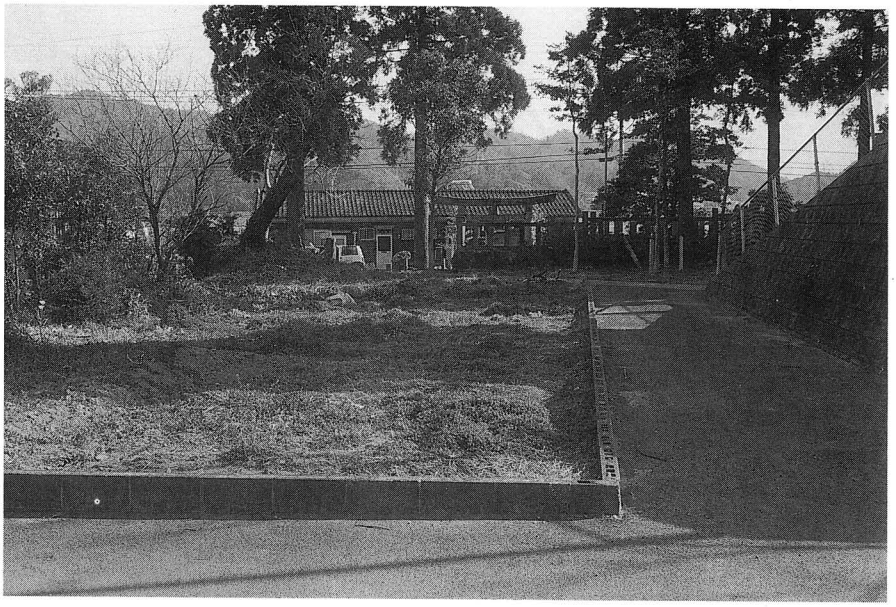
B地区トレンチ5
土層断面



出　土　遺　物

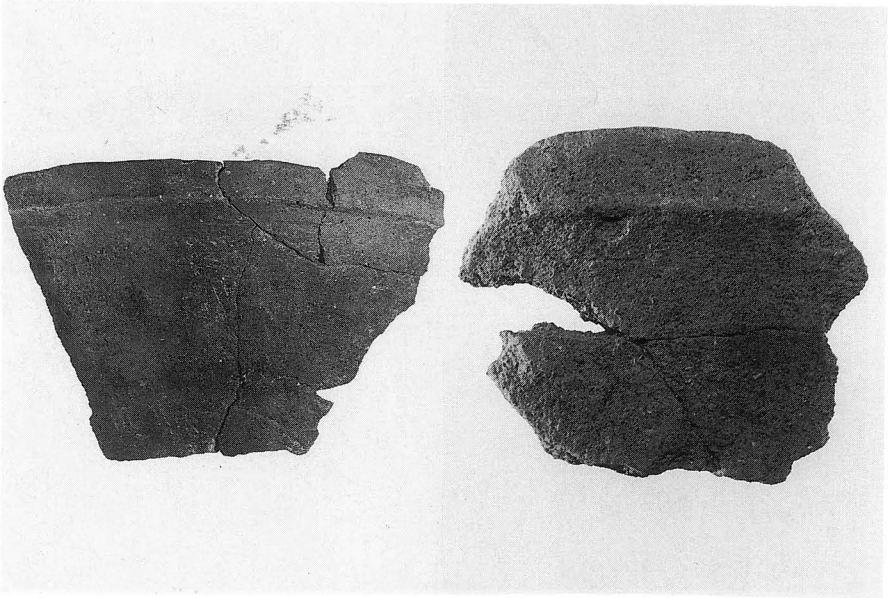
宮畑遺跡

調査地近景
（北方から）



トレンチ２
土層断面

出 土 遺 物

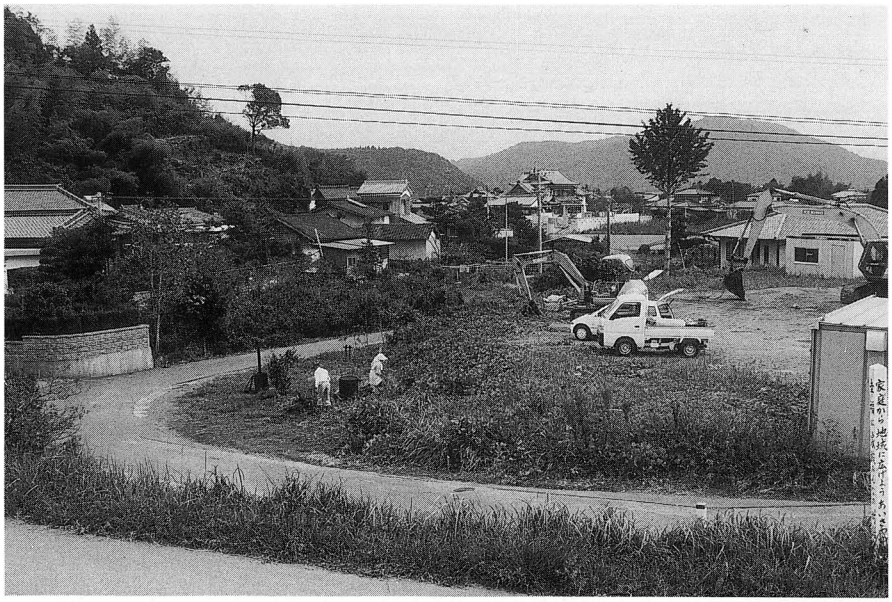


堂ノ脇遺跡

調査地近景

調　査　風　景

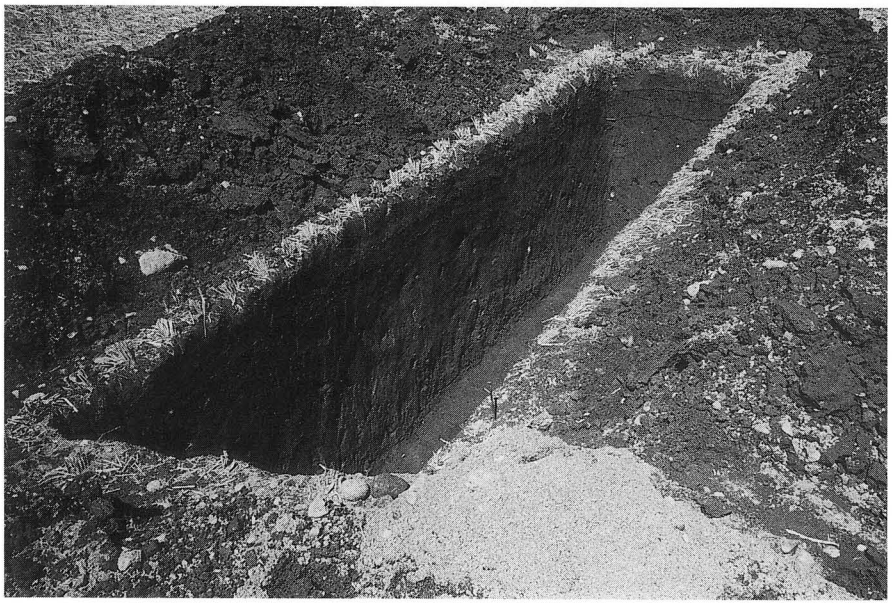
巣山遺跡



調査地全景

光蓮寺遺跡

調査地遠景
（北方から）



トレンチ
土層検出状況

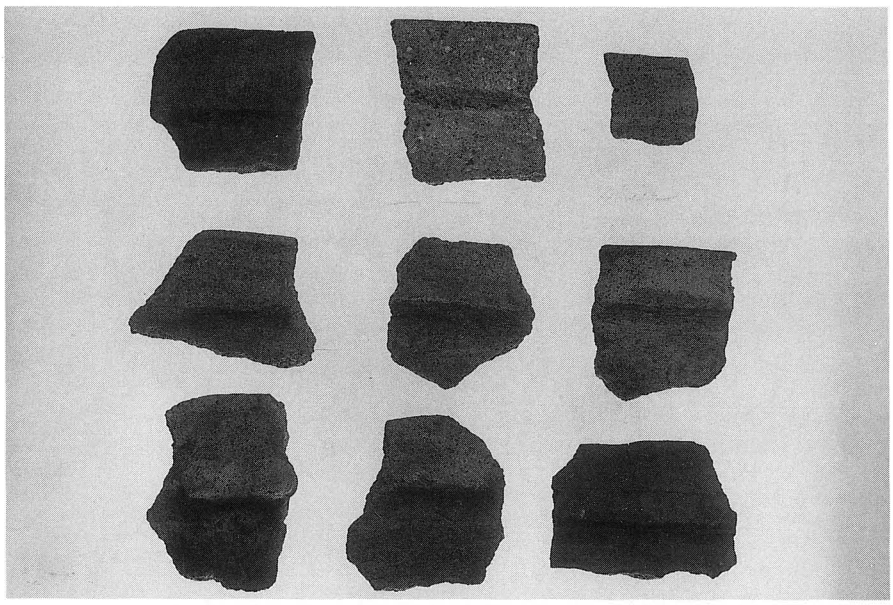
調　査　風　景
（北方から）

調査地遠景
（南方から）

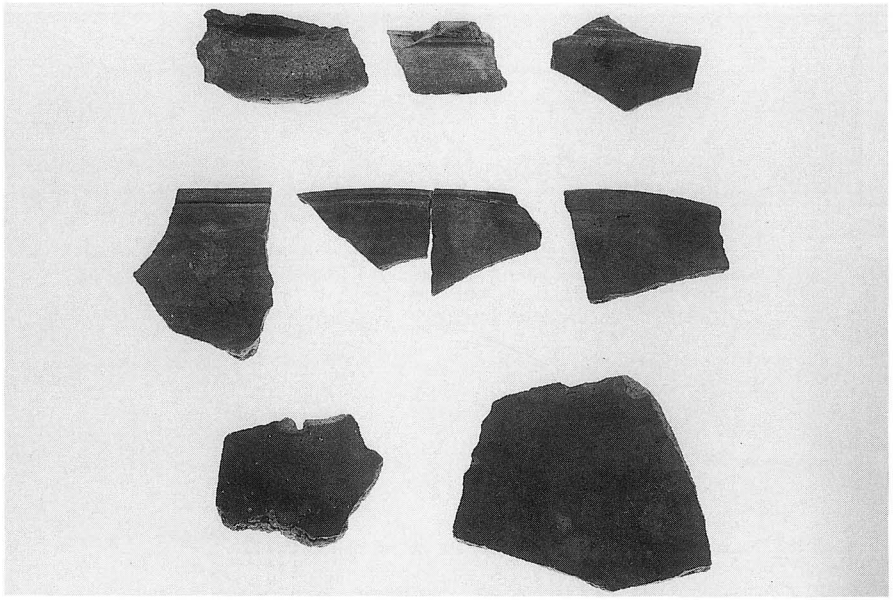
調査地遠景
（南東から）

調　査　風　景

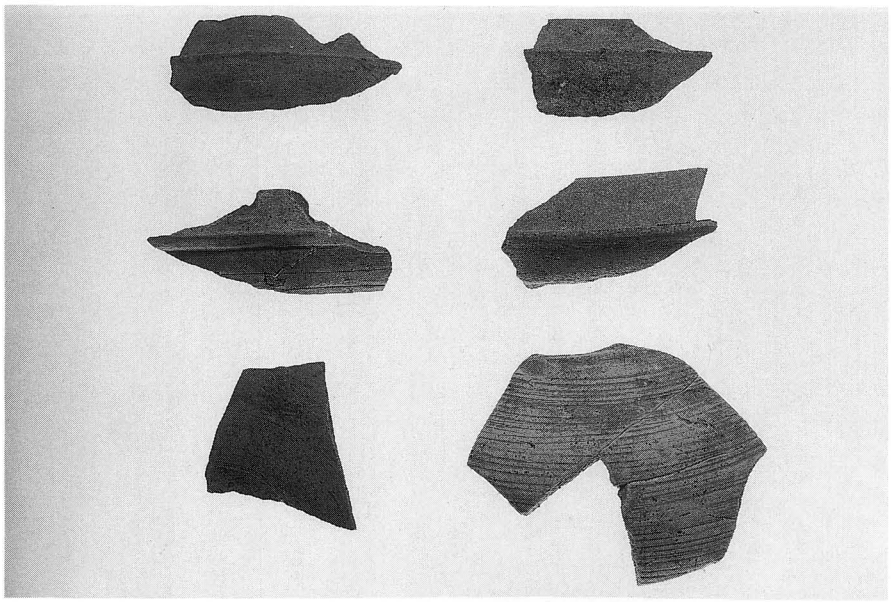
出　土　遺　物
（縄文土器）



出　土　遺　物
（黒色磨研土器）



出　土　遺　物
（須恵器）



報告書抄録

ふりがな	ごんじろう　まつのもと　やまのた　いいじま　うえのぼう　みやはた　どうのわき　すやま　こうれんじ　かみむた
書名	権次郎遺跡　松ノ元遺跡　山ノ田遺跡　飯島遺跡　上ノ坊遺跡　宮畑遺跡　堂ノ脇遺跡　巣山遺跡　光蓮寺遺跡　上無田遺跡（第2次）
副書名	平成7年度市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第14集
著者名	山田　聡、高浦　哲
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路2－1
発行年月日	1996年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
権次郎遺跡（ごんじろう）	延岡市出北（のべおかし いできた） 字権次郎（ごんじろう）	452033		32°33′53″	131°41′03″	1995 0609 ～ 1995 0616	20㎡	大規模小売店舗建設
種別	**主な時代**	**主な遺構**		**主な遺物**		**特記事項**		
水田址	近世	無		陶磁器				

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
松ノ元遺跡（まつのもと）	延岡市下三輪町（のべおかし しもみわちょう） 字松ノ元（まつのもと）	452033		32°29′58″	131°37′22″	1995 0619 ～ 1995 0622	16.5㎡	九州電力送電線鉄塔建設
種別	**主な時代**	**主な遺構**		**主な遺物**		**特記事項**		
散布地	弥生～近世	無		無				

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
山ノ田遺跡（やまのた）	延岡市櫛津町（のべおかし くしつちょう） 字山ノ田（やまのた）	452033		32°29′50″	131°41′24″	1995 0627 ～ 1995 0629	11.2㎡	ゴルフ場建設
種別	**主な時代**	**主な遺構**		**主な遺物**		**特記事項**		
散布地	中近世	無		陶磁器				

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
飯島遺跡（いいじま）	延岡市野田町（のべおかし のたちょう） 字飯島（いいじま）	452033		32°33′37″	131°39′15″	1995 0717 ～ 1995 1018	115㎡	区画整理事業
種別	**主な時代**	**主な遺構**		**主な遺物**		**特記事項**		
水田址	弥生～近世	無		陶磁器				

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上ノ坊遺跡（うえのぼう）	延岡市富美山町（のべおかし とみやまちょう） 字上ノ坊（うえのぼう）	452033		32°36′43″	131°40′15″	1995 0821 ～ 1995 0831	56.5㎡	宅地造成
種別	**主な時代**	**主な遺構**		**主な遺物**		**特記事項**		
散布地	古墳	土壙墓		短剣 鉄鏃 土師質土器				

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
宮畑遺跡（みやはた）	延岡市大貫町（のべおかし おおぬきちょう） 字宮畑（みやはた）	452033		32°32′05″	131°38′56″	1995 0918 ～ 1995 0921	14㎡	公民館建設
種別	**主な時代**	**主な遺構**		**主な遺物**		**特記事項**		
散布地	縄文～古墳	溝状遺構		縄文土器 須恵器				

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
堂ノ脇遺跡（どうのわき）	延岡市牧町（のべおかしまきちょう） 字堂ノ脇（どうのわき）	452033		32° 38′ 01″	131° 41′ 37″	1995 0926	10㎡	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
水田址	古墳	無			木グイ 土器			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
巣山遺跡（すやま）	延岡市川島町（のべおかしかわしまちょう） 字巣山（すやま）	452033		32° 33′ 35″	131° 41′ 39″	1995 0926	5㎡	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
散布地	弥生	無			無			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
光蓮寺遺跡（こうれんじ）	延岡市大貫町（のべおかしおおぬきちょう） 字光蓮寺（こうれんじ）	452033		32° 33′ 23″	131° 39′ 25″	1995 1025 ～ 1995 1026	10㎡	ガソリンスタンド建設
種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
散布地	近世	無			陶磁器			
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上無田遺跡（かみむた） （第2次）	延岡市野地町（のべおかしのじちょう） 字上無田（かみむた）	452033		32° 34′ 09″	131° 37′ 04″	1996 0213 ～ 1996 0219	37.5㎡	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
散布地	縄文～古墳	柱穴			黒曜石剥片、チャート剥片、縄文土器、弥生土器、須恵器		国史跡隣接地	